平成 21 年度

事　業　実　績　報　告　書

平成 22 年 10 月

財団法人　岩手県漁業担い手育成基金

目　　次

○　漁業担い手育成基金の概要 …… 1
1　組 織 …… 2
2　平成 21 年度事業総括表 …… 3
3　平成 21 年度事業実施状況 …… 4
4　事業の実績報告 …… 6
(1)　青少年漁業体験・交流事業 …… 6
(2)　漁業技術・経営研修事業 …… 12
(3)　漁業青壮年・女性活動事業 …… 19
ア　漁業青壮年活動 …… 19
①　試験研究等活動 …… 19
②　漁業青壮年交流活動 …… 39
③　漁業士活動 …… 40
④　地区活動実績発表大会 …… 52
イ　漁業女性活動 …… 56
(4)　異業種間交流事業 …… 59
(5)　特認事業（少年海づくり大会ほか） …… 59
(6)　水産高校等を中心とした地域の漁業・水産業の担い手育成プロジェクト事業 …… 65
5　地区協議会の運営 …… 68
6　事業実施状況の推移 …… 69
7　業務方法書 …… 72
8　業務細則 …… 78

○　漁業担い手育成基金の概要

1　目的

本基金は、漁業就業者、新規就業者等の就業促進に関する事業等を行うことにより、本県の漁業の担い手の育成・確保を図り、もって漁業振興及び漁村の発展に資することを目的とする。

2　事業の内容

前記の目的を達成するため、次の事業を行います。

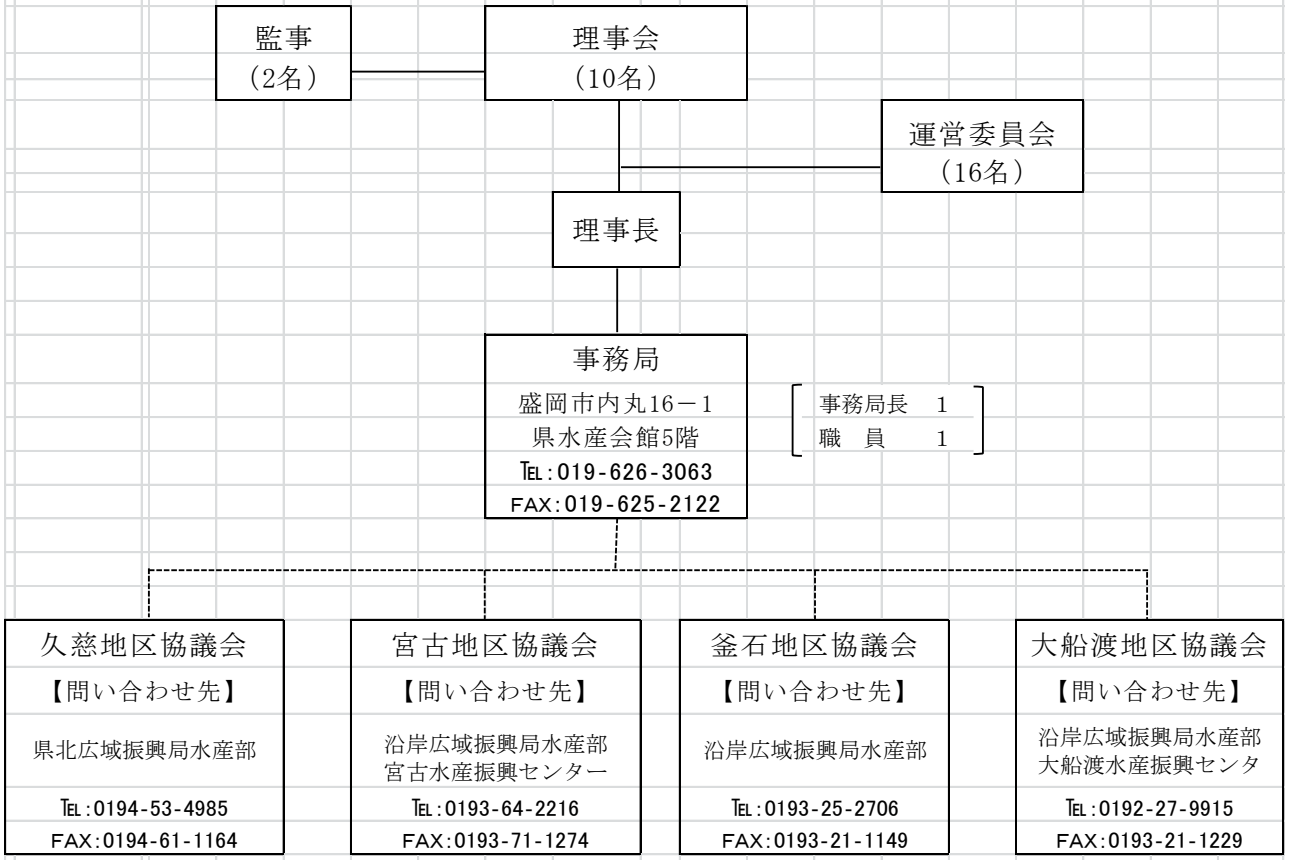
(1)　青少年漁業体験・交流事業
(2)　漁業技術・経営研修事業
(3)　漁業青壮年・女性活動事業
(4)　異業種間交流事業
(5)　特認事業

3　基金の概要

(1)　名　　称　　財団法人　岩手県漁業担い手育成基金
(2)　設立年月日　　平成３年 10 月１日
(3)　所　在　地　　盛岡市内丸 16 番１号（岩手県水産会館内）
(4)　設立根拠法　　民法第 34 条
(5)　代　表　者　　岩手県漁業協同組合連合会代表理事会長　大井誠治
(6)　基 本 財 産　　５１０，０００千円
(7)　出 捐 状 況

区　　分	出捐総額（百万円）	比率（%）	摘　　要
県	２５０	４９	
市　町　村	７５	１５	沿岸 12 市町村
漁 業 団 体	１７５	３４	27 漁協、連合会等
そ　の　他	１０	２	海づくり大会寄付金
計	５１０	１００	

1　組 織



役員及び運営委員名簿（H22.6現在）

役員

理　事　長	大　井　誠　治	県漁連会長
副理事長	佐々木　　敦	県農林水産部水産技監
理　　事	佐々木　昭　夫	県信漁連会長
理　　事	原子内　辰　巳	県漁業共済組合長
理　　事	上　村　勝　利	県漁船保険組合長
理　　事	庄　司　尚　男	県漁信基理事長
理　　事	工　藤　大　輔	県議会議員
理　　事	野　田　武　則	釜石市長
理　　事	沼　崎　喜　一	山田町長
理　　事	横　山　英　信	岩手大学教授
監　　事	向井田　敏　宏	県町村会事務局長
監　　事	石　川　勝　郎	県信漁連常勤監事

運営委員

委員長	小　国　泰　明	県漁業士会長
副委員長	伊　藤　克　宏	県水産振興課担当課長
委　員	外　舘　則　男	野田村産業振興課長
委　員	宇　澤　正　二	山田町水産商工課長
委　員	千　葉　英　彦	大船渡市水産課長
委　員	砂　田　光　保	広田湾漁協参事
委　員	藤　井　　充	田老町漁協参事
委　員	佐々木　義三郎	県漁連常務理事
委　員	佐々木　弘一郎	県漁業共済組合参事
委　員	西　條　里　見	JF共水連岩手支店長
委　員	畠　山　玲　子	指導漁業士
委　員	大和田　康　彦	青年漁業士
委　員	吉　水　裕　信	ＪＦ漁青連会長
委　員	盛　合　敏　子	県漁協女性連会長
委　員	金　野　　仁	宮古水産高校長
委　員	天下谷　昭　文	水産技術センター副所長

2　平成21年度事業総括表

（単位：円）

事　業　区　分	事　業　主　体	助成額	備　考
1　青少年漁業体験・交流事業		1,400,000	
(1)　児童・生徒等の漁業体験学習・交流活動	海づくり少年団等	1,200,000	
(2)　高校クラブ活動等	沿岸地区の高等学校	200,000	
2　漁業技術・経営研修事業		1,380,000	
(1)　国内研修	漁協青年部、研究グループ等	1,380,000	
(2)　海外研修	漁協青年部、研究グループ等	0	
3　漁業青壮年・女性活動事業		2,110,000	
(1)　漁業青壮年活動		1,690,000	
ア　試験研究等	漁協青年部、研究グループ等	1,070,000	
イ　漁業青壮年交流活動	ＪＦ漁青連、支部	50,000	
ウ　漁業士活動	漁業士会、支部	350,000	
エ　地区活動実績発表大会等	ＪＦ漁青連各支部	220,000	
(2)　漁業女性活動	漁協女性部等	420,000	
4　異業種間交流事業	漁協青年部、研究グループ等	0	
5　その他本基金の目的を達成するために必要な事業		1,068,983	
(1)　地区協議会の運営	地区協議会	46,700	
(2)　特認事業		1,022,283	
ア　少年海づくり大会事業等	地区協議会、漁業士会	482,283	
イ　その他（高付加価値向上等活動）	研究グループ、漁協女性部	540,000	
合計		5,958,983	

3　平成 21 年度事業実施状況

(1)　青少年漁業体験・交流事業

将来を担う漁業後継者の育成・確保に資するため、県内の海づくり少年団等が行う漁業体験学習等の活動 20 件に対し助成を行った。また、水産高校のクラブ活動等 6 件に対し助成を行った。

表１　青少年漁業体験・交流事業実績

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1　漁業体験学習等	20	142	144	3,889
2　水産高校1日体験入学	4	5	5	565
3　水高クラブ活動	2	(周年)	(周年)	45
計	26	147	149	4,499

(2)　漁業技術・経営研修事業

漁業担い手の資質向上を図るため、ＪＦ漁青連等が行う国内研修 7 件に対し助成を行った。

表２　漁業技術・経営研修事業実績（国内研修）

研修内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	参加人数
大船渡地区〈石川県・カキ〉	1	3	1	4
〃（東京都・カキ調査）	1	3	5	4
釜石地区（クレーン講習）	1	2	2	10
宮古地区（石川県・カキ）	1	4	5	8
〃　（福岡、佐賀県・カキオーナー制）	1	3	3	20
全　県　（東京・発表大会）	2	6	2	9
計	7	21	18	55

(3)　漁業青壮年・女性活動事業

漁業経営の改善や地域の活性化等の促進を図るため、漁村青壮年グループ及び漁業女性グループが行う試験研究や交流活動等 20 件に対し助成を行った。

表３　漁業青壮年・女性活動事業

事業内容	対象団体数	延べ回数	延べ日数	延べ参加人数
1　試験研究等活動	9	－	（4～3 月）	（実 137）
2　漁業青壮年交流活動	2	2	2	154
3　漁業士活動	2	7	10	136
4　地区活動実績発表大会	4	4	4	267
5　漁業女性活動	3	2	2	151
計	20	15	18	845(他)

(4) 異業種間交流事業

実績なし。

(5) その他事業

当基金の円滑な運営を図るため、4 地区協議会の開催は、3 月 18 日の津波のため 1 地区のみの開催となった。（他、持回り承認）

また、特認事業として、少年海づくり大会（交流大会）を 3 地区で開催した。その他高付加価値向上等活動事業として、カキ直販導入試験 1 件、特産品開発の施設整備 1 件の支援を行った。

表 5　少年海づくり大会等実績

大会の名称	開催場所	開催時期	参加少年団	参加人数
大船渡地区海づくり少年団交流大会	細浦港・大船渡湾・（社）県栽培協会	8 月 4 日	3	108
宮古地区少年海づくり交流大会	県立宮古水産高校・乗船体験・食品製造等	8 月 1 日	6	97
久慈地域少年海づくり大会	久慈市漁協・久慈湾・もぐらんぴあ・稚魚放流	7 月 29 日	5	158
計			14	396

(6) 水産高校等を中心とした地域の漁業・水産業の担い手育成プロジェクト事業（国庫補助事業）

地域漁業等担い手確保に資するため、国庫補助事業により宮古水産高校と連携し、生徒の現場実習等を実施した。

表 6　生徒の現場実習等

項目	受入先	参加人数	備考
1 漁業実習	宮古漁業協同組合他 13 箇所	生徒 38 人	定置漁業・コンブ養殖・ホタテガイ養殖・カキ養殖・種苗生産及び漁場環境・サケ孵化場・水産食品加工及び衛生管理
2 技術者等による学校での実習	指導漁業士 4 人	生徒(延)112 人	養殖施設実技指導・カキ養殖講習・ホタテ養殖講習
3 教員の高度技術習得	指導漁業士 1 人	教員　2 人	カキ養殖技術 花見ガキ養殖講習
4 その他活動等	宮古水産加工業協同組合他 4 箇所	生徒(延)18 人 教員他協力団体	共同研究・小中学校等との連携・キャリアパス研究検討
計		生徒 168 人	

4　実施結果報告

(1)　青少年漁業体験・交流事業

ア　児童・生徒等の漁業体験学習・交流活動

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
広田マリンキッズ 	1 サケの稚魚放流	陸前高田市	4/23	45 名
	2 磯の生き物調べと海藻標本作り	長洞海岸	5/27	24 名
	3 高田松原海岸清掃	陸前高田市	5/29	21 名
	4 田谷浜・箱根山清掃	田谷浜・箱根山	6/3	26 名
	3 ホタテ耳吊り体験	広田	6/24	24 名
	4 海岸清掃、地曳網体験	田谷浜	7/15	18 名
	5 大船渡地区海づくり少年団交流大会	大船渡市	8/4	31 名
	6 栽培漁業協会見学	大船渡市	9/4	32 名
	7 松原海岸清掃、清掃工場・浄化センター見学	陸前高田市	9/4	32 名
	8 磯の生き物調べと海藻標本作り	長洞海岸	10/16	24 名
	9 サケ新巻作り体験	高田高校	12/2	31 名
	10 ホタテの選別作業体験	広田	12/4	21 名
	11 サケの卵飼育体験	広田小学校	12～4	53 名
蛸ノ浦海づくり少年団 	1 サケ稚魚放流	盛川	4/13	15 名
	2 アサリの育成調査	蛸ノ浦	4/27	62 名
	3 江の丸・船磯海岸清掃	江の丸海岸	6/19	77 名
	4 ホタテ耳吊り体験	蛸ノ浦	6/25	14 名
	5 ワカメ芯抜き体験	蛸ノ浦小	7/10	15 名
	6 ウニ採り体験	長崎港	7/16	19 名
	7 大船渡地区海づくり少年団交流大会	大船渡市	8/4	29 名
	8 サケ新巻作り（漬け込み作業）	蛸ノ浦漁港	11/20	29 名
	9 サケ新巻作り（洗い落とし作業）	蛸ノ浦漁港	11/25	29 名
	10 富美岡荘訪問	大船渡市	12/9	7 名
	11 ホタテ収穫体験	蛸ノ浦漁港	2/9	14 名

甫嶺海づくり少年団 	1 サケ稚魚放流 2 甫嶺川の水質調査（1） 3 EM 活性液使用のプール清掃 4 網起こし体験 5 鬼沢漁港清掃・海づくり少年団入団式 6 親子釣り大会 7 小中学生と高齢者による合同道路清掃 8 大船渡地区海づくり少年団交流大会 9 廃油石鹸作り 10 新巻作り 11 甫嶺川の水質調査（2） 12 小中学生と高齢者による合同道路清掃 13 養殖業についての学習（ﾎﾀﾃ、ﾎﾔ、ﾏﾂﾓ、ﾜｶﾒ）	浦浜川 甫嶺川 甫嶺小 鬼沢漁港 鬼沢漁港 甫嶺 大船渡市 甫嶺 越喜来 甫嶺川 甫嶺 甫嶺小	4/13 6/13 6/28 7/23 7/26 7/26 7/28 8/4 9/29 12/2 12/9 12/25 3/9	3 名 19 名 27 名 9 名 27 名 27 名 27 名 19 名 20 名 9 名 19 名 27 名 9 名
唐丹かもめ少年団 	1　サケ稚魚放流、潮干狩り体験 2　海岸清掃、漂流物調査 3　サケ新巻づくり・イクラづくり見学 4　水産加工場（サケ）見学 5　サケふ化場見学	片岸川 片岸海岸 片岸川 阪神低温 片岸川	4 月 6 月 11, 12 月 12 月 3 月	80 名 79 名 20 名 11 名 11 名
尾崎うみの子少年団 	1　尾崎の海学習（磯観察、潮干狩り、釣り） 2　清掃活動（海岸清掃、道路清掃） 3　ワカメ漁業体験（種まき、塩蔵、芯抜き） 4　サケ新巻づくり 5　海の子版画カレンダー作り	尾崎白浜 尾崎白浜 尾崎白浜 漁協支所 学校	7, 11 月 7、10 月 12、3 月 12 月 11～12 月	12 名 延 38 名 延 29 名 延 16 名 7 名
白浜海づくり少年団 	1　ワカメ体験学習 （芯抜き、のれん作り、販売、収穫と加工） 2　清掃活動（海岸清掃、道路清掃） 3　親子海釣り大会 4　地域に学ぶ（白浜小と地域の伝統・文化・産業） （地域の動植物、海の生き物） 5　ウニ獲り、網おこし体験 6　山と海の自然体験活動 （釜石夢ワカメ交流推進事業） 7　活動実績発表 （上閉伊地区漁村青壮年研究活動実績発表会） 8　海辺の環境探検隊横浜ツアー （釜石夢ワカメ交流推進事業）	学校等 白浜、仮宿 白浜海岸 白浜、 仮宿 仮宿 楢ノ木平 釜石湾 釜石市 横浜市	4、7、3 月 4、 7 月 6/20 6～11 月 6～2 月 7/11 8 月 7/30 12 月	延 66 名 延 52 名 26 名 7 名 11 名 26 名 7 名 7 名 7 名

安渡海洋少年団 	1　サケ稚魚放流体験 2　海岸一斉清掃 3　海と山の自然体験学校 （釜石夢ワカメ交流推進事業） 3　ロープ結索法講習会 5　水産加工場見学（越戸商店） 6　サケの遡上、採卵見学（大槌川サケ採卵場） 7　鮭料理教室（大槌町漁協女性部） 8　サケ新巻づくり（民宿六大工）	大槌川 安渡 釜石湾 小学校 大槌町 大槌川 小学校 安渡	4 月 6 月 8 月 10 月 11 月 11 月 12 月 12 月	25 名 ― 6 名 34 名 11 名 17 名 17 名 延34 名
織笠海づくり少年団 	1　環境美化活動　４～11 月　全児童 2　体験学習 水生生物調査　６月　３，４年生 貝類養殖体験　６～７月　５，６年生 海のパトロール　７月　４，５年生 サケ飼育等　12～３月　４～６年生	織笠川 織笠川ふ化場 山田町内	H21.4 ～ H22.3	72
赤前海づくり少年団 	1　稚魚放流会 サケ稚魚　４月　１，２，５年生 ヒラメ　９月　全児童 2　海岸清掃　７月　全児童 3　体験学習 磯の生物観察　６月　全児童 総合学習「赤前の海」　７月　４年生 水生生物調査　９月　４年生 カキ剥き体験　11 月　６年生 サケ稚魚飼育　２～３月　４年生 4　宮古栽培漁業センター見学 ７月　４年生 5　「赤前の海新聞製作」　９月　４年生	赤前小 津軽石川 赤前地区周辺漁港及び海岸線	H21.4 ～ H22.2	58
重茂海づくり少年団 	1　定置網見学　11 月　６年生 2　新巻づくり体験　12 月 解体及び塩漬け（全児童） 洗浄及び解体　（児童） 3　生物飼育体験 ミニ水族館（学校展示）	与奈漁場 重茂漁港 重茂小	H21.11 ～ H21.12	60

小本海づくり少年団 	1　育樹祭　６月　３年生 2　海浜清掃　８月　全児童 3　野鳥観察会　２月　３年生 4　サケ体験学習　９月～３月　全児童	小本浜 小本川ふ化場	H21.6 ～ H22.3	83
島越海づくり少年団 羅賀海づくり少年団 （田野畑村水産物消費拡大協議会） 	1　ウニ採り体験 （１）島越地区　８月 （２）羅賀地区　７月 （３）机地区　　７月 2　新巻づくり体験 （１）島越地区　12 月 （２）羅賀地区　12 月	島越漁港 平井賀漁港 机漁港	H21.7,8 ,12	延　414
堀内海づくり少年団 	・久慈地域少年海づくり大会 ・サケ新巻作り体験（解体、塩漬け） ・　サケ新巻作り体験（塩抜き、乾燥）	久慈市 堀内 堀内	7/29 12/3 12/9	18 18 18
野田村海づくり少年団 	・安家川流域環境保全推進事業に参加 （河川清掃、河川生物観察、ヤマメ放流、交流） ・野田ホタテまつりに参加	岩泉町 (安家) 野田村	7/26 12/12	15 6
久喜海づくり少年団 	・海浜清掃、磯観察 ・久慈地域少年海づくり大会 ・夏休み漁業体験 （定置網見学、船こぎ、ウニ採り、ウニむき体験） ・ウニ種苗生産施設（栽培漁業協会）見学 （ウニの生態と栽培漁業の概要を学習） ・サケ新巻（解体、塩漬け）とイクラ作り体験 ・サケ新巻（塩抜き、乾燥）	久喜 久慈市 久喜 洋野町 久喜 久喜	6/29 7/29 7/28 8/26 11/13 11/19	61 10 33 13 10 10

長内海づくり少年団 	・久慈地域少年海づくり大会 ・ウニむき体験、清掃活動 （ウニの体について学習、ウニむき、試食） ・サケ新巻作り体験	久慈市 二子 二子	7/29 8/7 12/23	29 20 10
平山小学校（久慈市漁業夏井漁業生産部） 	・ウニむき体験、ウニ採り体験、清掃活動 （ウニの体について学習、ウニむき、ウニ採り）	夏井	7/6	42
中野海づくり少年団 	・サケの放流学習 （稚魚放流、サケの成長） ・久慈地域少年海づくり大会 ・有家川探検 水質調査、水生生物調査、地形調査、 ・サケの採卵学習 （採卵体験、受精の見学、ふ化場の見学）	ふ化場 久慈市 有家川 ふ化場	4/24 7/29 9/6 / 10/19	53 29 25 29
宿戸海づくり少年団 	・ウニの森づくり植樹への参加 ・水産教室 干出岩盤上の生物観察、つくり育てる漁業の学習、ウニの体の学習、ウニむき体験 ・浜遊び ・久慈地域少年海づくり大会 ・浜の清掃活動 （小学校から浜までの道、浜） ・水産生物の室内水槽での飼育・観察	宿戸 宿戸 宿戸 久慈市 宿戸 宿戸	5/23 7/21 6/25 7/29 5/18 4～3	83 29 48 30 161 161
高田高等学校 	管内中学生を対象とした一日体験入学を実施 １海洋科学コース（水上オートバイ、小型船舶体験乗船、スキンダイビング体験） ２食品科学コース（ちくわ製造体験、夢の缶詰づくり体験）	高田高校、田谷浜	7/27	45名

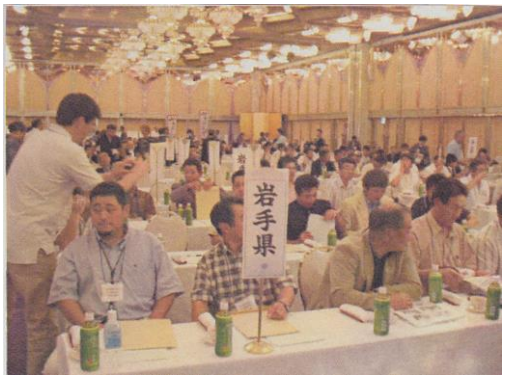
宮古水産高等学校 	1　一日体験入学 山田町　　２校（54 名） 宮古市　　12 校（151 名） 岩泉町　　１校（1 名） 田野畑村　１校（２名） 地区外　　１校（１名） （操船体験、栽培実習、水産食品加工実習、集団調理実習、ロープワーク体験、手芸製作実習、研究発表見学、食品衛生及び栄養学の講義）	水産高校 りあす丸	H21.7.28	209
種市高等学校 	・1 日体験入学（海洋開発科の各設備等の見学） ・公開講座（スキンダイビングの基本トレーニング、スキューバダイビング体験）	洋野町 洋野町	7/31 8/1～8/9	132 10
久慈東高等学校 	・実習船リアス丸の乗船体験 対象；小中学生を含む一般市民、海づくり少年団 （7/29 は久慈地域少年海づくり大会と共同開催）	久慈湾	7/29 7/30	120 70

イ　高校クラブ活動等

実施主体	活動内容	場所	時期	参加人数
高田高等学校 	1　海洋環境・海洋資源調査 ・藻類及び不要水産生物の有効利用（わかめ及び焼却かき殻を濾財として用いたろ過システムの作成） 2　水産物の有効利用（サバの頭部等を使用した新製品の開発・研究）	高田高校	4～2 月	16 名
宮古水産高等学校 	1　食品家政科食品管理コース　３名 利用度の低い海藻（スジメ）の加工品の開発 ※　水産物の有効利用「三陸宮古に“すじめ”あり！第二報～宮古水産高校　“新食感食品”旅立ちの時～」は、平成 21 年度全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会にて、「最優秀賞」を受賞。 2　海洋技術科　６名 宮古湾の環境調査と海藻と鉄との関係の研究	宮古水産高等学校	H21.5～H22.1	9

(2) 漁業技術・経営研修事業（国内研修）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">全国かきサミット石川大会参加</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">広田湾漁業協同組合青壮年部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０７名
（４名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>２８４，８８０　円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">２５０，０００　円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">隔年開催される、第８回全国かきサミット石川大会に参加し、全国のかき養殖漁業者との交流を深め、今後の漁業生産活動の知識を深めるための研修を実施する。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">日程：平成２１年７月８日～平成２１年７月１０日
場所：石川県七尾市和倉温泉
参加者：青壮年部会員４名（山田洋典、熊谷政之、藤田敦、佐々木洋一）</td></tr>
<tr><td>結　果
及び考察</td><td colspan="4">平成２１年７月９日開催の全国カキサミット石川大会に参加し、全国のカキ養殖漁業者との意見交換を行った。
サミットの内容は、次のとおり。
１　基調講演「カキの魅力と食育～栄養価と消費拡大～」
２　事例報告「石川県のカキ養殖について」
３　研究発表「イワガキの書苗生産について」
４　パネルディスカッション「高品質のカキを求めて」
上記発表等の中から有益な事例等については、今後のカキ養殖漁業経営に取り入れることにした。

  </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">漁業後継者によるカキ市場調査</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">細浦研究会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０名
（４名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１２８，０００　円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１００，０００　円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">養殖水産物の流通状況の調査、情報交換、情報収集</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">日程：平成２１年１０月８日～平成２１年１０月１０日
場所：東京都築地市場　卸売業者５社【築地魚市場㈱、中央魚類㈱、大都魚類㈱、第一水産㈱、東都水産㈱】
参加者：細浦研究会会員４名（紀室秀則、近藤秀明、佐々木健、梅沢秀也）</td></tr>
<tr><td>結　果
及び考察</td><td colspan="4">出荷した牡蠣の流通経路が分かり、仲買人との話も今後の牡蠣生産の品質向上の手がかりとなり大変参考になった。
今まで、私達の牡蠣がどのように消費されているかあまり深く考えてなかったのですが、市場でセリに掛けられた後、仲卸業者に渡り店舗にて小分け売りや箱売り(10kg)された後、スーパーや各商店並びに鮮魚店等に渡っているとのことでした。また、三陸産の牡蠣の評価はとても高く品質も良いとのことでした。今後も、三陸ブランドの牡蠣として更に良質の牡蠣を生産したいと思います。
初めての築地の研修視察ということで参加し、築地の広さと魚介類の数に驚きました。
物に関して、買い人の方や築地の方からいろいろな指摘や指導を受け、実際に行かなければ分からないことを知ることができ大変参考になりました。
（指摘及び指導事項）
○　牡蠣の粒を揃えること
いくら牡蠣の大きい物を出しても小粒の牡蠣が少し混じっているだけで評価は下がり値段も下がる。
○　緑色や黒っぽく色の悪い牡蠣は入れないこと。
○　牡蠣の身をこわさないように剥き、破れたものは入れないこと。
○　梱包で袋の中の空気はしっかり抜くこと。きちんと抜かないと袋の中の牡蠣が暴れ、中が濁る為。
○　牡蠣の水切りを良くすること。
○　評価の高い人達の荷作り方は、観て良い所は参考にすること。
今回、初めての視察を体験して実際どのように自分たちの出荷した牡蠣が流通しているのか、仲買人の人達の話を色々聞くことができてとても良かったと思います。
また、牡蠣の選別等も聞かなければ判らなかったことなどもあり、今後に生かせると思います。
応対した仲卸業者：武田、えびは三栄、玉銀、コアミ、町昇、池豊、住定、吉善</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">固定式クレーン特別講習会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">ＪＦ岩手漁青連上閉伊支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>５会員
（１０名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>９９，０００　円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">３０，０００　円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">漁業者の漁業技術の向上及び資格取得により就業範囲の拡大を図る</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">期　日：　平成２２年２月２、３日　（火、水））
場　所：　学科講習　（財）岩手労働基準協会釜石支部（釜石市只越町）
実技講習　新日鉄釜石構内（釜石市）
参加者：　ＪＦ漁青連上閉伊支部会員　１０名</td></tr>
<tr><td>結果
及び考察</td><td colspan="4">講習会の開催
１　JF 岩手漁青連上閉伊支部として、財団法人岩手労働基準協会の協力を得て、学科講習（９時間)、技能講習（４時間）を受講した。
２　日常の漁業作業に必要なクレーン作業について、技術向上及び危険防止に関する知識向上も含め、電気、力学、関係法令等に関する学科講習と、クレーン運転に必要な荷の吊り方等に関する実技講習が行われた。
３　参加者全員が講習を完遂した。今後の漁業作業における危険防止と作業効率の向上が期待される。

 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">第８回　全国カキ・サミット石川大会参加及び周辺の水産関係施設の視察</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">ＪＦ岩手漁青連下閉伊支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>２０８名
（７名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>５３１，０８１円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１００，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">第８回全国カキ・サミット石川大会に参加し、カキ養殖に関する最新情報を収集するとともに、大会会場（石川県七尾市）周辺の水産関係施設の視察研修を実施した。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　期　日　平成21年７月７日　～　７月10日
２　場　所　石川県七尾市
３　参加者　ＪＦ岩手漁青連下閉伊支部（代表　大沢養殖研究会）　７名
宮古地方振興局水産部水産課普及チーム　１名</td></tr>
<tr><td>結　果
及び考察</td><td colspan="4">１　カキ養殖漁業者との意見交換
カキ小屋の運営状況及び直販の取組みについて聞き取り。
温湯駆除等生産技術についての意見交換

２　石川県水産総合センター生産部能登島事業場　視察
アカガイの種苗生産事業について

３　能登食祭市場　見学

４　七尾市公設地方卸売市場鮮魚部　視察
概要説明
七尾魚市場の販売戦略について

５　第13回地域水産加工技術セミナー　出席
４題の講演を聴講

６　第８回全国カキ・サミット石川大会　出席
基調講演「カキの魅力と食育～栄養価と消費拡大～」
事例報告「石川県のカキ養殖について」
研究発表「イワガキの種苗生産について」
パネルディスカッション「高品質のカキを求めて」</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">養殖マガキのオーナー制度視察</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会宮古支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>２７名
（９名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１，２２１，１３７円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">４００，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">佐賀県唐津市漁協唐房支所の下部組織「からつんカキ養殖部会」で実施している養殖マガキオーナー制度を視察し、オーナー制度に対する消費者の反応や制度上の工夫・問題点等を聞き取ることにより、地区内での養殖オーナー制度の実現性を検討した。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　期　日　平成 22 年 1 月 11 日　～　1 月 13 日
２　場　所　佐賀県唐津市及び福岡県糸島郡志摩町
３　参加者　岩手県漁業士会宮古支部会員　９名
宮古漁協青壮年部員　２名
岩手県漁業士会大船渡支部会員　５名
宮古地方振興局水産部水産課　３名
大船渡地方振興局水産部水産課　１名</td></tr>
<tr><td>結　果
及び考察</td><td colspan="4">１　佐賀県玄海水産振興センター
対応者　伊賀田普及加工担当係長　及び　佐賀県漁連指導課　岡部主任
（１）玄海地区の水産概況について
（２）水産振興に関する主な取組み事例
（３）協業体について

２　唐津市漁協からつんカキ養殖部会
対応者　代表　吉田青年漁業士、坂口　登氏、坂口　修一氏（登氏の後継者）
※　取組み事例報告や質疑応答には、坂口登氏が対応。
坂口　登氏　玄海カキ養殖部会長及び唐津市漁協監事
（１）協業化までの経緯
（２）オーナー制度
（ア）メリット
運転資金の確保が容易（生産者サイド）。</td></tr>
</table>

結　　果 及び考察	計画生産が可能となる（生産者サイド）。 ノロウイルス等の風評被害が少ない（生産者サイド）。 安全・安心、満足感（消費者サイド） （イ）デメリット 発送等、オーナーへの細やかな対応が必要 自然災害により生産不調となった場合等、ユーザーへの保障（返金） 3　カキ小屋 カキ小屋２軒（徳栄丸、のぶりん）に、10 名づつ入場した。 4　所　感 （1）オーナー制度について 約 1,500 名（平均２口の権利を保有と仮定）のオーナーの垂下連を５業者で分配すると、１業者あたり 600 連となり、運転資金 3,000 千円（@5,000 円×600 連）の事前確保及び計画生産が可能となること、又、風評被害等の影響を受け難いことは、養殖業者にとってのメリットは大きいものと思われた。 オーナー制度の運営の要点は、下記のとおりと思われた。 ・　繁忙期のオーナー対応を支援する事務局整備。 ・　まとまった人数のオーナーを確保すること。 ・　マスコミ等を通じたＰＲと、オーナー特典の考案（リピーター対策）。 （2）協業体について カキ養殖の歴史が浅く、カキ養殖業者の着業時期が揃っていたため、施設整備に関する補助事業の導入が容易になることが、協業体設立の強い動機になっている。 協業体が一元的に行っているのは、養殖産物の販促活動のみとなっており、今後も共同作業や経理の一元化等に向かう動きは無さそうである。 ただし、販売促進への取組みは非常に熱心であり、事務局体制や運営方法も確立しており、「道の駅」への出店や、カキ以外の水産物との抱き合わせ等の構想もあることから、協業体による６次産業化への取組みは、今後とも伸長していきそうな様子は窺えた。 （3）カキ小屋について カキ小屋の規模は、予想よりも大きく、大都市圏も近いことから、かなり盛況な様子が窺えた。

結　　果 及び考察	小屋のオーナーは、自ら生産したカキを自らの裁量で売り切るために工夫しており、それが各小屋の特徴となっている様子（今回は、休業していたが、小屋によっては、着衣の防汚のため、ジャンパーや前掛けを貸与している小屋もあり）。 カキは１年仔を提供しており、本県のカキと比較するとかなり小振りではあるが、殻の外見と中身のバランスが取れていれば、クレームは無いとのこと。 各小屋は家族経営が中心であり、男性が沖作業から殻洗浄までを担い、接客は女性及び従業員となっていた。 参加者の印象を聞くと、小屋の設備もシンプルであり、用地の目処が立てば、自分も開業できそうとの意見が多く、自ら生産したものを自らの裁量で売り捌くことができるカキ小屋営業への関心は高かった様子であった（宮古地区で開業する場合、カキ・ホタテを中心に、サケのチャンチャン焼き、「春いちばん」のシャブシャブ、二級品のアワビ、殻付うに等の組み合わせで、十分営業可能ではないか？ との発言あり）。

(3) 漁業青壮年・女性活動事業

ア　漁業青壮年活動

①　試験研究等活動

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">ムール貝養殖事業化試験</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">綾里養殖研究会（綾里漁協所属）</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０名
（１０名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>２０３,７４２円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">２００,０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">４年前から試験的に実施してきたムール貝養殖を、今後事業規模で展開していくために、必要な知見を集積･検討する。</td></tr>
<tr><td>材料
及び方法</td><td colspan="4">Ⅰ　垂下水深別の比較とロープ種類別の比較（同じ施設に次の６本を垂下）
①　輸入ロープ:長さ５ｍ（垂下水深別の比較）
②　輸入ロープ　　４ｍ（　　〃　　＋ロープ種類別の比較）
③　輸入ロープ　　３ｍ（　　〃　　）
④　Ａ工業製　　４ｍ（ロープ種類別の比較）
⑤　水質浄化用(白)　４ｍ（　　〃　　）
⑥　水質浄化用(茶)　４ｍ（　　〃　　）
・水質・垂下時期：平成 21 年４月 28 日
・垂下場所：研究会養殖桁（２号側の桁）
★　22 年８月下旬～９月上旬頃の出荷時重量を計測
Ⅱ　成長試験（間引き「あり」と「なし」の２本についても比較）
○輸入ロープ　４ｍ
・　垂下時期：平成 21 年４月 28 日
・　垂下場所：漁場観測定点（St.３:尾入１号の桁）
★　22 年１月から毎月 30 個体をサンプリングして殻長･殻付重量を計測</td></tr>
<tr><td>結果
及び考察</td><td colspan="4">Ⅰ［国産養殖ロープの確保］
１　目的：輸入ロープは今後の安定確保に不安があるため、国内メーカーによるムール貝養殖専用ロープの確保を図る。
２　結果：国内ではムール貝養殖専用ロープが製造されていないため、従来から使用している輸入ロープと形状が似ている水質浄化用資材（３種類）をロープに見立てて垂下した。
付着状況については、Ａ工業製（写真１）及び水質浄化用資材の茶（写真２）は芯が細く、突起部分がナイロン形状であったためか、稚貝の付着は芯の周辺部分のみで、付着個数も輸入ロープと比べ極めて少なかった。水質浄化用の白（写真３）については、前記の２種よりは芯が太く、突起部分も太かったが、垂下後は突起部分の材質が徐々に劣化し、稚貝の付着は芯の周辺部分のみで、付着個数も輸入ロープと比べ少なかった（写真４）。</td></tr>
</table>

写真１　Ａ工業製

写真２　水質浄化用（茶）

写真３　水質浄化用（白）

写真４　（白）の付着状況（8/24）

Ⅱ［付着稚貝の効率的な確保］

１　目的：ムール貝の稚貝を養殖ロープへ確実かつ効率的に付着させるため、ロープの設置･垂下方法等について検討する。

２　結果：生産効率の高い垂下ロープの長さ（長さが５ｍ必要か否か）について検討する計画であったが、以下のとおりザラボヤの大量付着に伴う稚貝脱落等により、出荷時の付着状況･重量比較を行えない状況となった。

Ⅲ［各種ロープ比較試験］

１　目的：国内メーカーによる“サンプルロープ”と、従来の“輸入ロープ”を同一定点に垂下し、稚貝付着後の状況確認と出荷時重量を比較する。また、試験漁場を湾内に複数設定し、各漁場における成育状況を比較し、養殖漁場としての適否を検討する。

２　結果：各種ロープごとの出荷時重量を比較する計画であったが、21 年夏以降多数のザラボヤが付着（写真５及び６）し、その除去作業時に多くの稚貝が脱落した。さらに、21 年秋から年末にかけ、越喜来湾全域でムール貝の大量へい死が発生したため、当調査も断念することとなった。

漁場による成育の違いについては、生残貝を用いて 22 年１月から成育状況調査を開始した。２月 19 日時点における成育状況は、湾奥寄りの尾入１号では平均殻長４６.５㎜（昨年同期３５.５㎜）、平均殻付重量９.５㌘で、湾口寄りの尾入４号では平均殻長４３.７㎜、平均殻付重量８.１㌘であった。出荷時期となる 22 年８月頃まで、今後も毎月調査を実施していく。

写真５ロープに付着したザラボヤ（8/24）

写真６ロープに付着したザラボヤ（8/24）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">ホヤ人工採苗量産化試験</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">白浜養殖組合　ホヤ部会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>４名
（　　名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>８５，０５０円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">８０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">宮城県や県内の一部地域に依存しているホヤ種苗について、地場での採苗技術を確立し、質及び量ともに安定した種苗の確保を目指す。</td></tr>
<tr><td>材料
及び方法</td><td colspan="4">1　採苗器は、カキ殻 100 枚を 1 連としたもの 75 連を用いた。
2　親ホヤは下記により準備し、産卵を誘発した。
(1)　成熟の確認
(2)　200 個程度を海水掛け流しの陸上水槽に収容して常時照明を点灯し、採卵予定日の前日に消灯して産卵を誘発した。
3　親ホヤの水槽内に放精・放卵させ、受精卵を回収して計数した。（採卵）
4　受精卵は、採苗器を収容した水槽に収容した。
止水にして投込み式ヒーターで約 10℃に調温し、約 1 週間後まで幼生の付着を図ってから給水を開始した。（採苗）
5　給水から約 1 週間後に採苗器を養殖施設に垂下した。（沖出し）</td></tr>
<tr><td>結果
及び考察</td><td colspan="4">1　1 月 3 日に 200 個の親ホヤを準備し、産卵抑制を開始した。
2　7 日に消灯して産卵を誘発したところ、8 日から産卵が始まり、9 日までの 2 日間で 1,530 万個の受精卵を得た。
3　採苗用水槽は 1 ﾄﾝの水槽を使用し、2 基は室内に、1 基は屋外に設置した。受精卵を 3 水槽に分割して収容し、それぞれ投込み式ヒーターで水温を 10℃程度に維持した。屋外の水槽は水温が低めに経過した。
4　３水槽とも幼生の浮遊が確認され、採苗器への付着も確認したところ、　屋内に設置した２水槽では１枚のカキ殻に５０個程度の付着を確認できたが、外に設置した水槽では付着数が少なかった。
屋内の採苗槽は 16 日に、屋外の採苗槽は 1 日遅れて給水を開始した。
5　1 月 22～24 日に、採苗に参加した 4 名が各自の養殖施設に採苗器を垂下した。
（考察）
6　照明を常時点灯することにより産卵が順調に誘発され、2 日間で予定した数量の受精卵を確保できた。水温の影響は受けなかったものと考えられた。
7　採卵作業を 1 箇所で行って受精卵を分配することにより、3 箇所で採苗することができたことから、調温可能なヒーターがあれば、個人レベルで止水の採苗が難しくは無いことが分かった。
なお、カキ殻の採苗にこだわったため、シュロ糸との比較はしなかったが、さらに大量の種苗を生産する場合は、採苗水槽を効率的に活用する必要がることから、シュロ糸による採苗も検討する必要がある。
8　平成 20 年度採苗試験の付着状況を H21 年 7 月に確認したところ、ヒーターを使用した採苗では 1 枚当たりの付着数が 80～150 個であったが、ヒーターを使用できなかったものでは 10～40 個程度であることが確認された。
H21 年度の採苗結果については 7 月頃に確認する予定である。</td></tr>
</table>

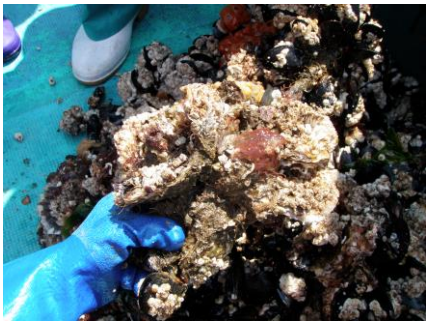
結　　果 及び考察	白浜養殖組合のホヤ養殖試験（H21 年度） （参考）平成 20 年度に採苗したホヤ種苗（H21.7.15 確認）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">釜石湾静穏域漁場適正試験</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">釜石湾漁業協同組合青年部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>２６名
（２０名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１１９，９０２円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１００，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">釜石湾静穏域養殖漁場においてホタテガイ・カキ・ホヤの垂下養殖試験を実施し、湾内漁場特性の把握、養殖方法改善など、生産性向上のための知見を得る。</td></tr>
<tr><td>材料
及び方法</td><td colspan="4">釜石湾内の泉浜沖、垂水、白浜前において、下記の試験を実施した。
1　カキ養殖適正化試験
４、５、６月に水産技術センターで温湯処理（60℃の温湯に 10 秒間浸漬）をしたカキ原盤を泉浜の筏養施設に垂下して、他生物の付着状況、成長、生残の状況を観察した。
2　カキ及びホヤの生産性試験
泉浜の筏養殖施設にカキとホヤを垂下養殖し、それらの生産性を検証した。なお、ホヤ種苗は人工採苗技術の確立を目指しつつ自ら生産した。
3　ホタテガイ、カキ、ホヤ養殖比較試験
湾内の３漁場（白浜沖、垂水、泉浜沖）で３種目の試験養殖を行い、各漁場の成長、生残を比較した。
4　上記の３漁場で水温、塩分、ＤＯを毎月調査した（水産技術センターと共同）。</td></tr>
<tr><td>結果
及び考察</td><td colspan="4">1　カキ養殖適正化試験
温湯処理したことによるカキのへい死は見られなかった。7 月までは処理した方がフジツボの付着は少なかったが、8 月では未処理でも昨年ほどの大量付着はなかった。垂下連を丸く束ねて表層に垂下したことと、今年度はフジツボの発生量が少なかったことが要因と考えられた。
９月になるとムラサキイガイの付着が認められたため、10 月には垂下綱を伸ばしたところ、カキの成長は良好であった。
2 月の時点で、フジツボの付着は 4 月の温湯処理で最も少なかったが、ムラサキイガイの付着はどの垂下連でも多かった。
2　カキ及びホヤの生産性試験
H20 年に開始したカキ養殖試験は、手作業でフジツボを除去したものでは、ムラサキイガイの付着は多かったものの、夏頃までの成長は良好で身入りも良かった。しかし、垂下連へのフジツボとムラサキイガイの付着が著しくなり、10 月で継続を断念せざるを得なかった。
H20 年 1 月に人工採苗して 10 月に本養成を開始したホヤは順調に成長した。
シュロ糸種苗では適正密度に調整できたが、カキ殻種苗では過密となりホヤの成長にバラツキが生じた。6 月に刃物で切込んで密度調整を試みたが改善されなかった。H22 年度内には販売サイズになることが見込まれた。
H22 年 1 月にホヤの人工採苗を実施した。採苗器は 9 ㎜パームロープ（６ｍ二つ折りで三つ編み 5 本/連）を 10 連と、シュロ糸（150m 巻き）を 6 枠、カキ殻（25 枚/連）を 14 連とし、ホヤ幼生の付着を確認して試験筏に垂下した。
3　ホタテガイ、カキ、ホヤ養殖比較試験
ホタテガイについて湾内の 3 箇所で比較すると、成長は泉浜沖、白浜前、垂水の順に良かったが、生残率は垂水、泉浜の順であった。3 箇所ともムラサキイガイやフジツボ等の付着が多く、総じて生残率は低かった。泉浜沖では付着物の影響で試験を断念したため、最終の生残率を比較できなかった。
カキ、ホヤについても 3 箇所に垂下して成長と生残を比較する予定。
4　水産技術センターによる釜石湾内の観測に同行して協力した。</td></tr>
</table>

結　　果
及び考察

カキ原盤の温湯処理（5/20）

5 月に温湯処理したカキ
8 月時点で付着物は少なかった（8/24）

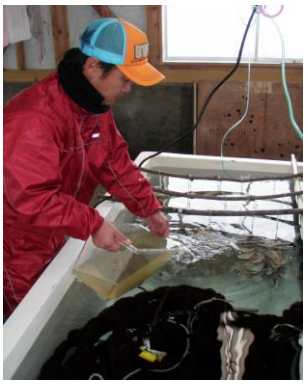


フジツボを手作業で除去した H20 年のカキ
ムラサキイガイに覆われていた（6/26）

成熟は進んでおり、身入りも良かった

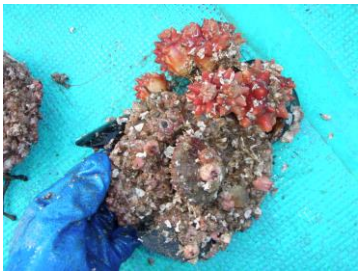
←H20 年 1 月採苗の
ホヤ養殖状況
（上がシュロ糸、
下がカキ殻）

H22 年 1 月の
ホヤ人工採苗作業→



←ホタテガイ養殖試験
白浜前漁場は付着物が
多いが成長は良かった

ホヤ、アカザラガイ→
フジツボなどが付着
へい死は多いが成長
は良かった



課　題　名	エゾイシカゲガイ採苗試験			
実施主体	釜石湾漁協　青年部		構成員数（うち参加者数）	２８名
総事業費	９３，２６２円	うち基金助成額	９０，０００円	
事業の目的	釜石湾静穏域漁場におけるエゾイシカゲガイ養殖の可能性を検証する。			
材料及び方法	1　平成 22 年 3 月 9 日、釜石湾内の養殖漁場（既存の養殖施設）に調査点（6 箇所）を選定し、エゾイシカゲガイの採苗器を垂下した。 2　採苗器は、タライ型発泡スチロール製容器に川砂を入れ、フタ篭を被せたもの 2 個を用いた。 3　付着物による汚れを考慮して、フタ網は目合い３分と７分の２種類を使用し、フタ網内に付着基質等は入れなかった。 4　フタ網目合いが同じ採苗器２個を連結して１連とし、１ヶ所にフタ網目合いが異なる採苗器を１連ずつ垂下した。 5　垂下綱の長さは５ｍとし、各地点とも採苗器の設置水深が６～７ｍとなるように設置した。			
結果及び考察	1　採苗器設置の時期は２月下旬から３月初旬を予定したが、津波等の事情により３月９日となった。浮遊幼生の出現状況については調査しなかった。 2　採苗器の設置場所は、青年部の試験施設等から以下のとおり選定した。 ①　白浜前漁場（白浜浦漁港前） ②　白浜前漁場（青出浜） ③　白浜沖漁場（白浜浦漁港寄り） ④　白浜沖漁場（湾央寄り） ⑤　泉浜沖　　（筏養殖試験施設） ⑥　垂水漁場　（水産技術センター試験施設） 3　10 月頃をめどに採苗器を回収して稚貝採取結果を調査し､採苗の可否及び適地等を検討する予定。 採苗試験の成果によっては、既存容器の再利用により養殖試験の展開も検討する予定。 釜石湾漁協青年部のエゾイシカゲガイ採苗試験　（H22.3.9　採苗器設置作業） 			

結　　果 及び考察	 １タライに約１３ℓの川砂を入れた。 オモリとする砂袋（右下）も作成した。 砂を入れた採苗器 採苗器と浮き玉、垂下綱など 同じ目合いの採苗器２個を連結 下の採苗器には砂袋を付けた。 ２段１連の採苗器、ネット目合い２種類 釜石湾内の６箇所（青年部施設等）に 各種１連、計２連を垂下した。

<table>
<tr><td>題　名</td><td colspan="4">養殖マツモの販路開拓試験</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">釜石湾漁協　青年部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>２８名
（３名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１５９，８６３円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１５０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">釜石湾内で養殖されるマツモについて、イベント等での試食及び宣伝活動を加工業者や販売業者と連携して行うとともに、消費者からの感想や意見を聴取して、マツモの消費拡大と多様な販売方法の開拓に資する。</td></tr>
<tr><td>材料
及び方法</td><td colspan="4">青年部員３名が「かまいし物産フェア」において、養殖マツモの宣伝と消費者からの聞取りによる情報収集活動を行った。
期　　日：平成 22 年 2 月 23、24 日（火～水）
場　　所：いわて銀河プラザ（東京都）
実施体制：下記の機関と協力して行った。
(有)菊鶴商店；釜石産マツモ商品（パック詰め生マツモ）の製造
釜石振興開発㈱　かまいし特産店：マツモ商品の販売（イベント会場）
釜石湾漁協釜石女性部：マツモ料理の試食（23 日 16 時まで、釜石市が支援）
◎<u>釜石湾漁協青年部：マツモの試食宣伝（23 日 16 時から、24 日）</u>
青年部の活動内容：
釜石湾産の養殖マツモを消費者の面前で湯通しして試食提供した。
マツモの生態、養殖方法、食べ方などを来客に説明して宣伝した。
パック詰め生マツモ（菊鶴商店、350 円/70ｇ）の販売を支援した。
試食した人からマツモの感想や販売にあたっての要望等を聴取した。</td></tr>
<tr><td>結果
及び考察</td><td colspan="4">１　マツモの試食提供
マツモを知っていた人は皆無であった。マツモは１～４月頃にだけ三陸地域で収穫される海藻であることなどを説明して試食をお願いした。初めて試食した人がほとんどであった。
２　生マツモの販売支援
70ｇ入り 150 パックを 2 日間で販売する予定であったが、23 日に釜石湾漁協釜石女性部がマツモの味噌汁とおひたしを試食提供して宣伝したところ、100 パック以上が売れてしまったため、青年部が 24 日に販売する分として 31 パックが残されていた。よって、23 日は試食宣伝のみ行った。
24 日は 10 時 30 分から試食宣伝を行ったところ午前中に完売した。
３　マツモに対する評価調査
初めて試食した人のほとんどが「うまい」という感想を述べた。
生マツモが売切れたことを説明すると、試食だけでは不満の人が多かった。
干しマツモが周年販売されていることを説明したが、銀河プラザで販売している干しマツモ（宮古の業者製）を購入した人は無さそうであった。
70g で 350 円（5,000 円/kg）の価格設定で高いという意見はなかった。
販売した生マツモの賞味期限を 2 月 24 日に設定していたので、当日中の消費をお願いして販売したところ、帰宅するまでの所要時間と持ち帰り方法（温度）を心配する声が聞かれた。
（考察）
・　マツモの認知度は低いが、試食を提供しながら販売すれば売れる。イベント等で宣伝すれば、消費量を拡大できる可能性は高い。
・　生マツモについては、一定量を計画的に出荷する体制を構築するとともに、流通やパッケージについても検討が必要である。
・　干しマツモについても試食宣伝する必要がある。</td></tr>
</table>

結　　果 及び考察	釜石湾漁協青年部のマツモ宣伝、消費者調査 いわて銀河プラザにおける釜石物産フェア（浜千鳥、かまいし特産店、リアス海藻が出店） かまいし特産店の販売コーナー （仙人秘水、水産物缶詰、干物など） かまいし特産店が販売した生マツモ （350 円/70g） 青年部の試食宣伝コーナー マツモを湯通しして試食を準備 マツモについて説明しながら試食を勧めた 12 時から 13 時半頃の来客が多かった いわて銀河プラザで販売されていた 「焼きマツモ」（宮古市の業者製）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">ホヤ人工採苗量産化試験</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">唐丹町漁協ホヤ養殖組合</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１５名
（　　名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>８７，１４６円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">８０,０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">宮城県や県内の一部地域に依存しているホヤ種苗について、地場での採苗技術を確立し、質及び量ともに安定した種苗の確保を目指す。</td></tr>
<tr><td>材　　料
及 び 方 法</td><td colspan="4">1　採苗器は、次の 2 種類を使用した。
(1)　9mm パームロープを 5m に切断して二つ折りにし、3 本（15m）を三つ編みにして 1 連としたもの合計 68 連（延 1,020m）
(2)　3 ㎜パームロープ 2 本撚り（2m）を 420 本（延 840m）
2　親ホヤは下記により準備し、産卵を誘発した。
(1)　成熟の確認
(2)　200 個程度を海水掛け流しの陸上水槽に収容して常時照明を点灯し、採卵予定日の前日に消灯して産卵を誘発した。
3　親ホヤの水槽内に放卵・放精させ、受精卵を回収して計数した。（採卵）
4　受精卵は、係数後直ちに採苗器を収容した水槽に収容した。
止水にして投込み式ヒーターで約 10℃に調温し、約 1 週間後まで幼生の付着を図ってから給水を開始した。（採苗）
5　給水から約 1 週間後に採苗器を養殖施設に垂下した。（沖出し）</td></tr>
<tr><td>結　　果
及 び 考 察</td><td colspan="4">1　12 月 25 日に、唐丹湾産の親ホヤを採取して成熟を確認した。
2　12 月 29 日に、親ホヤ 220 個により産卵抑制を開始した。
3　1 月 3 日に消灯して産卵を誘発したところ、4 日から産卵が始まり、6 日までの 3 日間で 1,899 万個の受精卵を得た。
4　受精卵を 500ℓの採苗水槽 2 槽に収容したところ、幼生の浮遊が見られず、採苗は失敗した。
5　1 月 8 日に、3 ㎜パーム採苗器について再度のアク抜きを行うとともに、新たな親ホヤ 200 個により産卵抑制を開始した。
6　12 日に消灯したところ、13 日から産卵が始まり、16 日までに 1,225 万個の受精卵を得た。14 日以降は産卵数が極端に少なかった。
7　受精卵を 500ℓの採苗水槽 2 槽に収容し、それぞれ投込み式ヒーターで水温を 10℃程度に維持した。
8　幼生の浮遊と採苗器への付着を確認し、21 日に給水を開始した。
9　1 月 27 日に、採苗器を沖出しし、養殖施設（水深 23m）に垂下した。
（考察）
10　恒光条件による産卵誘発は有効であったが、親ホヤの産卵は昨年度に比べて不活発であった。低水温が関係していると考えられた。
11　一回目の採苗が失敗した原因は、サンプル瓶での試験により、3 ㎜パーム採苗器であったことが確認された。再度アク抜きをして採苗に使用したところ、幼生の付着が認められた。
12　２組のヒーターを備えたことにより、採苗器の数量を拡大できる見込みとなったが、パームロープの採苗器では容積が大きくなるため、シュロ糸等による効率的な採苗を検討する必要がある。
13　平成 20 年度採苗試験の付着状況を H21 年 7 月に確認したところ、付着が良好な採苗器と不良なものがほぼ半々であった。
H21 年度の採苗結果については 7 月頃に確認する予定である。</td></tr>
</table>

結　　果
及び考察

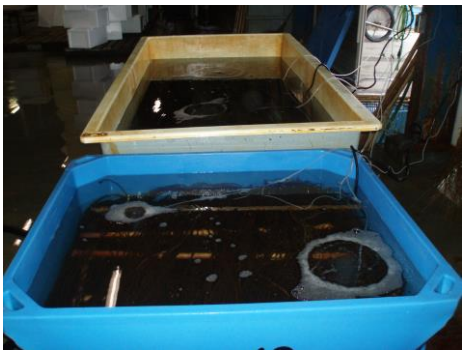
唐丹町漁協ホヤ養殖組合のホヤ採苗試験

３ｍｍパームの採苗器

採卵用水槽と受精卵回収用の濾し器（手前）

受精卵の回収作業

濾し器からバケツへの収容



採苗用水槽

下層が９mm、上層が３㎜のパーム採苗器

平成 20 年度に採苗したホヤ種苗（H21.7.9 確認）付着が良好なもの（左）と不良なもの（右）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">岩盤付着生物等除去試験</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">田老町漁業協同組合青壮年部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>２１名
（１１名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>８２，９３５円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">７０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">岩盤の基質面を確保し、まつも・ふのり等の着生状況を観察した。</td></tr>
<tr><td>材　　料
及 び 方 法</td><td colspan="4">１　試験期間　平成 21 年 5 月　～平成 22 年 2 月
２　試験場所　宮古市田老　三王岩周辺及び田老漁港赤灯台周辺、えんびょうだ
３　方　　法
(1)　基質面更新試験
・磯掃除　平成 21 年 5 月 7 日、山王岩周辺
・チェーン設置　平成 22 年 2 月 10 日、赤灯台付近
岩盤の雑海藻及び付着動物を除去し、基質面を確保することで、マツモ・フノリの着生を促すとともに、波消ブロックにチェーンを垂下し、波の作用によってチェーンが振れることでブロック表面の雑物除去が可能か試験した。
(2)　海中林造成試験
・ブロック投入　平成 22 年 2 月 10 日、えんびょうだ
・投入数　50 個
わら縄を刺したセメントブロックを作成し、そのわら縄にこんぶ種苗を付けて漁場に投入し、経過観察を実施した。</td></tr>
<tr><td>結　　果
及 び 考 察</td><td colspan="4">結　果
（１）基質面更新試験
ワイヤーブラシによる手作業での清掃を実施したが、実施時期と有用海藻類の着生の時期にズレがあったためか、効果は無かった。
波消ブロックのチェーンによる雑物除去では、ブロックの隙間にチェーンが挟まり、チェーンの振れる範囲が狭くなりすぎて、効果が限定的となってしまった。
（２）海中林造成試験
コンブ種苗を結束したコンクリートブロックには、竹や杉の枝等を差し込んでウニ除けとした。
現在、経過観察中である。
課　題
（１）基質面更新試験
手作業やチェーンによる雑物除去は、作業効率が悪く、効果が得られる範囲が極わずかであったことから、今後は、高圧洗浄機を用いた作業が必要と思われた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">山田産水産物販路開拓 PR 事業</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">三陸やまだ漁業協同組合　大沢養殖研究会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０名
（７名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>１３３，５９６円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１００，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">山田湾産の水産物の内陸への流通を目的として、量販店の催事等での販売と試食を通じての PR 活動を行った。</td></tr>
<tr><td>材　　料
及 び 方 法</td><td colspan="4">内陸部の量販店の催事に参加し、山田湾産魚介類の販売・試食を行い、お客さんとの対話を通じて消費者が望む水産物について模索した。
1 回目
・開催年月日：平成 21 年 10 月 26 日（金）
・実施場所：北上市さくら野百貨店
・内容：お得意様「秋の特別ご招待会」での山田湾産魚介類の PR 販売・試食
２回目
・開催日時：平成 21 年 10 月 31 日（土）
・実施場所：奥州市江刺区スーパーサンエー
・内容：大創業際での山田湾産魚介類の PR 販売・試食
３回目
・開催日時：平成 22 年 3 月 27 日（土）
・実施場所：奥州市江刺区スーパーサンエー
・内容：誕生 34 周年記念祭での山田湾産魚介類の PR 販売・試食</td></tr>
<tr><td>結　　果
及 び 考 察</td><td colspan="4">山田湾産の水産物を内陸の消費者に効果的に PR することが出来た。
試食販売を通じて、自分達で生産した水産物の評価を直接消費者から聞くことが出来た。
これまで、生産者は作ればそれで終わりでしかなく、自分たちの商品の評価を消費者から聞く機会はあまり無かったが、本事業により、消費者との対話を通じて自分達が生産している水産物の評価を聞くことが出来たことから、販売方法を模索する上での参考となった。

平成 19 年度から山田産魚介類のＰＲと販売を目的として 3 ヶ年実施いてきたが、当初山田産の魚介類の知名度は沿岸にいて思っているほど以上に低く、山田はどこにあるかさえ知らない人がいるのには驚かされた。
また、養殖水産物の販売の場合一度に 10 枚、20 枚のホタテガイを購入するものだろうという先入観の中で、量販店に来たお客さんは一人でせいぜい 5 枚も買えば上客の部類ということも実際の販売をする中で実感した。
量販店での客一人当たりの購入単価は、その日の夕飯なりに出すおかずの単価であり、核家族化の中で一度に何十枚も購入することが無いのは至極当然のことである。
殻つきのホタテは剥けば殻がゴミになる。ゴミをためたくなければ最初からむき身を買えばいいのも当たり前である。
従来、漁業者は作ればそれで終わりでしかなく、自分たちの商品の価値を消費者から聞くこともなかなかない。一つひとつのことは当たり前であるが、理論だけでは対応できない部分をこの 3 ヶ年で学ぶことができた。定期的に伺う量販店では、行くたびに知名度が上がり、待っていてくれるお客さんが増えていくことが何よりの励みになった。
我々は今後も漁業を続けていくが、この 3 ヶ年で学んだことを生かすためにも、これからも積極的に自分たちの作った水産物の販路拡大のための活動を行うことで、生活基盤を少しでも安定させていきたい。</td></tr>
</table>

課　題　名	ホヤ養殖採苗試験			
実 施 主 体	野田漁友会		構成員数（うち参加者数）	８名 （８名）
総 事 業 費	２０７，４７５円	うち基金助成額	２００，０００円	
事業の目的	新規養殖対象魚種としてマボヤの人工採苗及び養殖の事業化を検討する。			

結　果　及び考察

昨年に続き、ホヤ人工採苗及び養殖の試験を行い、より安定した技術の確立と事業化を検討する。

○　異なる密度調整による成長差（平成 19 年産）

○　異なる巻き込み方法による成長差（平成 20 年産）

○　効率的な人工採苗技術の確立（平成 21 年産）

〔平成 19 年産〕

◇平成 19 年産のマボヤは、垂下ロープに種糸をらせん状にそのまま巻いただけであるため、7 月 7 日に間引きを実施。効率的な収量を確保するための適正な間引きの程度を調べるため、3つの試験区(適度・低密度・なし)を設定した。

◇適度区はマキリでマボヤに傷をつける方法で間引きを実施した。

間引き前のマボヤ

低密度になるよう間引きをしたマボヤ

◇マボヤの平均サイズは殻幅 39mm(25-52mm)、体重 51g(21-95g)であった。

◇9 月 8 日に各試験区の状態を確認し、それぞれ殻幅及び体重を測定し、結果は表1のとおり。

表1

区	適度に間引き 印:なし	低密度 印:グリーン	間引きなし 印:ピンク
状態	写真 1	写真2	写真3
平均殻幅（cm	38.6 (n＝6)	36.1 (n＝)	37.2 (n＝5)
平均体重（g)	47.0	42.5	45.0

◇マボヤの大きさは、グリーン＜ピンク＜なしの順であった。

◇7/11 にマキリで間引いたマボヤはちゃんとへい死していた(写真1)。

結　　果
及び考察

写真 1(適度)

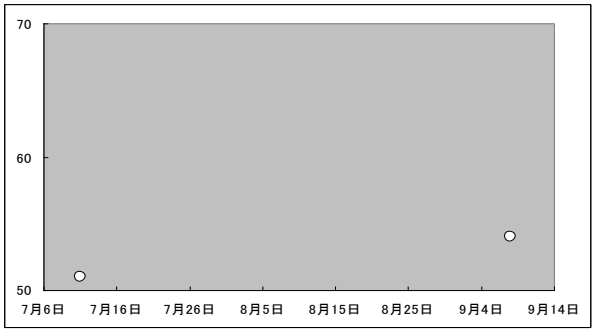
写真2(低密度)

写真3(間引きなし)

◇9 月 8 日段階のサイズは次のとおり(生育状況)

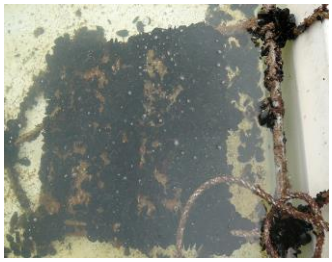
1 連あたりのマボヤ全重量	24.4kg
マボヤ 1 個あたりの平均重量	54 g
1 連あたりのマボヤ個数	450 個

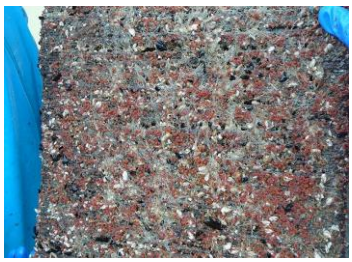
◇平均体重は、前回(7/11)よりも 3g増加。

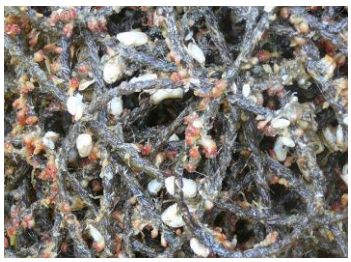


【平成 20 年採苗】

◇9 月 8 日にこれまでの保苗から本養成の段階に移行。


ムラサキイガイに巻かれた採苗器


ムラサキイガイを除去後の採苗器


稚ボヤは大きいもので殻幅が
3.5～4.8mm

結　　果
及び考察

◇本養成の巻き込み方法は2種類で行った。
◇種糸は直径 6mm のシュロ縄
◇垂下ロープは直径 22mm で長さ3m(黒綱 28 本、白綱 25 本)
◇ホヤ株の落下防止のため、垂下ロープ1本あたり4個の瘤をつくる(写真4)
◇種糸1mあたりの付着数は 400 個

黒綱	白
瘤を中心に部分的にらせん状に巻き込む (種糸を 1m程度に切断)	らせん状に垂下ロープ全体に巻き込み (H19 年産と同じ方法)

◇平成 20 年に採苗した稚ホヤがほとんどロープに残っていないことが 11 月 2 日の観察で判明。

マボヤのまばらな平成 20 年産の垂下ロープ

◇平成 19 年に採苗した稚ホヤは変化なし

結　　果
及び考察

〔平成 21 年産〕

◇11 月 28 日に野田産親マボヤ(約 30 個体)を屋内に収容。

◇当地区のホヤは県水産技術センターの研究により夜型ということが判明したが、過去2年間は昼型と同じ抑制方法で無難に採卵ができたことから、今年度も恒明下の状態で産卵抑制をする方法を実施した。

◇12 月 4 日から照明を消して自然日長下の状態に戻した。

◇採苗器にはシュロ縄(径 7mm)を用いた。1枠あたりのシュロ縄は 50m で 15 枠(750m)を用意した。

◇採苗には 500 ﾘｯﾄﾙの黒色パンライト水槽を2つ使用し、No.1 水槽には8枠、No.2 水槽には7枠を入れた。

◇県水産技術センターによる「マボヤ人工採苗マニュアル」では、幼生の適正密度が5粒/ml となっているので、1水槽あたり 250 万粒の受精卵を投入することを目標とした。

◇12 月4日から12 月 22 日までの日別の採卵数は表1、図1のとおりで、2日間目以降、採卵数は急激に減少した。

◇総採卵数は 6,445 千粒(うち、2,085 千粒は水産部から提供を受けた)。

◇上記期間中の水温は図2のとおりで、9.6℃～12.0℃の範囲であった(※12/17-12/21 はヒーターで加温した水温)。

◇海水はろ過をしていない生海水を使用した。

表１　日別採卵数

月日	採卵数	特記事項
12 月 4 日	1,540 千粒	
12 月 5 日	1,045 千粒	
12 月 6 日	200 千粒	
12 月 7 日	100 千粒	
12 月 8 日	20 千粒	
12 月 9 日	30 千粒	新たに親ホヤ約 20 個体を追加。恒明下に設定
12 月 13 日	160 千粒	自然日長下へ戻す

12 月 14 日	220 千粒	検鏡の結果、幼生がほとんど付着していないことが判明
12 月 15 日	30 千粒	
12 月 16 日	20 千粒	
12 月 17 日	130 千粒	ヒーターで水温 14℃程度に加温したのち、自然に降温
12 月 18 日	500 千粒	
12 月 19 日	1,725 千粒	種市から移入
12 月 20	370 千粒	
12 月 21 日	360 千粒	種市から移入
12 月 22 日	30 千粒	採卵作業を終了

結　　果
及 び 考 察

◇No.1水槽に約 300 万粒を投入した 12 月 14 日に久慈水産部で検鏡してもらったところ、幼生の付着がほとんどみられないことがわかった。

◇原因としては採卵の開始時期が遅かったことや、12 月 4 日から港内の海水が数日間にわたりひどく濁っていたことなどが考えられたが、よくわからない。

◇12 月 15 日以降は No.1 水槽に 1,925 千粒、No.2 水槽には 1,460 千粒を投入した。

◇12 月 17 日に水産部から種市産の親ホヤ(約 20 個体)とヒーターの提供を受け、その翌日には採卵数が増加(50 万粒)したが、一時的であった。

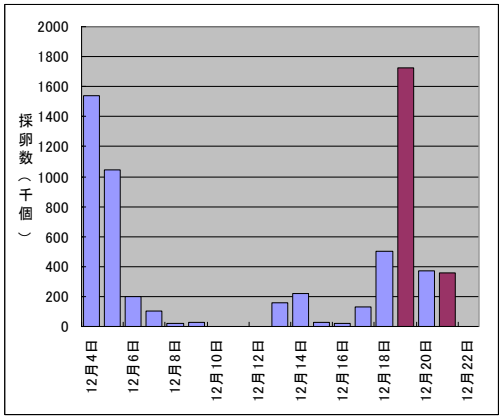


図１　水産部提供卵

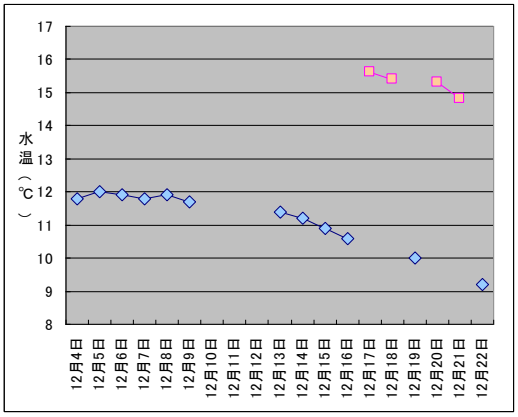


図２

◇1 月 4 日から野田湾の養殖施設で保苗(種糸への付着数は未計数)。

② 漁業青壮年交流活動

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">ＪＦ岩手漁青連気仙支部研修会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">ＪＦ岩手漁青連気仙支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０会員
（　５７名　）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>９２，６８０円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">５０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">講演や各種養殖に関する話題提供等の研修会を開催し、会員の資質向上を図るとともに、会員相互の交流を推進する。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　日　時　平成２２年１月２２日（金）　14:30～17:00
２　場　所　大船渡市「大船渡市プラザホテル」
３　参加者　７３名（漁青連気仙支部会員５７名、その他１６名）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">１　講演　「漁業は鉄で蘇る」（牡蠣の森を慕う会　代表　畠山重篤氏）
漁場生産力を向上させるための先駆的な知見について説明を受けた。
本講演は会員からの希望によるものであり、今後の各会員の活動の方向にも影響を与えることが期待される。
２　話題提供
（１）「ザラボヤについて」（水産技術センター　主任専門研究員　野呂忠勝氏）
（２）「ワカメの病虫害について」（水産技術センター　主任専門研究員　藤原孝行氏）
ホタテ養殖における阻害要因となるザラボヤの知見とワカメ養殖における病虫害に関する知見について説明を受けた。出席者のほとんどがホタテガイ・ワカメ養殖を営んでおり、今後の養殖管理の一助となることが期待される
３　活動報告
「佐賀県のカキオーナー制に係る視察報告」
（広田湾漁協青壮年部小友支部　山田洋典氏）
会員が参加した視察報告があり、先進地の事例の知見を深めることができた。

 </td></tr>
</table>

③　漁業士活動

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">宮城県漁業士会北部支部・岩手県漁業士会大船渡支部交流会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会大船渡支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>３１名
（６名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>３０，０００円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">３０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">県境を接する宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部が互いの漁業について情報交換し交流を深める。</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">宮城県漁業士会北部支部と岩手県漁業士会大船渡支部との交流会の開催
１　開催日時　平成 21 年 8 月 5 日（水）14:30～18:00
２　開催場所　宮城県気仙沼市　「ゲストハウス　アーバン」
３　参 加 者　３２名（岩手県漁業士会大船渡支部６名、宮城県漁業士会北部支部 13 名、漁協関係２名、市町村関係１名、県関係（宮城県６名、岩手県４名））</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">(1)主催者挨拶
宮城県漁業士会北部支部　小野寺支部長
岩手県漁業士会大船渡支部　佐々木支部長
(2)来賓紹介・挨拶
宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部　菅原部長
(3)自己紹介
参加漁業士がそれぞれ自己紹介を行った
(4)主要養殖種に関する情報・意見交換
【宮城県の水産業の現状について】
宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部伊藤技術主幹が話題提供した。（別添資料）
【カキ】
○話題提供（宮城県；佐々木漁業士）
・ H20 年度の数量・金額は、例年の 90%ぐらいである。（志津川地区）
・ 宮城生協と取引を行っている。→生産者が生協へ赴き、剥き方、焼きカキの試食販売を実施。→生協会員が現地へ来てカキ処理場や漁場を見学。
・ ラーバ調査、種苗生産行っているが、薄種の生産者が増えている。
・ 身入りが悪く、密殖が主因と考える。どうするかが課題だ。
・ カキ殻処理費用は、19 名で、業者への支払い費用は H19；200 万円、H20；300 万円となっている。
○話題提供（岩手；佐々木漁業士）
・ 7/9 のカキサミットでの気になった点について→前回は宮城県で開催し、ノロウィルス対策、安全安心確保が主要テーマであった。今回は消費者、流通業者も参加してもらい、カキが栄養面のほか環境改善（漁場浄化）を含めていろんな面で優れていることをアピールした。
・ カキは３～５月までおいしい。もっと市場関係者や消費者にアピールし、販売時期を延長できれば販売量が増えるのではないか。</td></tr>
</table>

結　　果	宮城支部長 確かに３～５月はおいしい、しかし、ノロや貝毒があり生で食べられなくなる。（生食むき身は３月いっぱいで終了）期間を延ばせないのか。（宮城県の「生かきの取扱いに関する指導指針」で、生食用かきのかきむき期間が３月 31 日までとなっている。） 宮城漁業士 ４～５月までのかきむき期間延長訴えてきた。かきの生産も２年つづけて思わしくない。例年 10～12 月で５千トンを販売し、１～２月はノロで危険性が大きい、せめて４月いっぱいまで延長できないものか。 宮城県漁協 漁協としては１ヶ月延長し、生→凍結→海外輸出（韓国向け）と考えている。希望としては 5/10 まで延長になればいい。→動き有り 宮城支部長 輸出もいいが国内消費が必要。現時点での最大可能消費量はどれくらいか。 菅原水産漁港部長 現在の 5500 トン（生食用）は個人的には生産過剰と思う。3500～4000 トンがいいところだろう。今後はいかに良いものをつくるか（買受はよくないと言っている）、選別の方法をとれるかが課題である。 岩手佐々木支部長 生産量を増やすのではなく期間延ばすことで労働力が分散できる。消費者は４～５月まで食べれることを知らない。つまり一般に広まっていないということであり、知名度を上げる必要がある。担い手対策として春ガキの PR を関係機関が連携して考えてほしい。 岩手（船本） ６～７年前までは築地１本、選別もそれほどやっていなかった。→現在は選別をしっかりやり、単価も上がった。→相対業者も参入、むき身 8～15ｇの平均単価も上昇した。 現在、築地が 70～80%、相対 20～30%（5 社）の仕向けとなっている。 ニーズに合った商品づくりで販路もある。 カキ殻処理費用は 18 人で 300 万円を超えている。→岩手内陸のコンポストへ処分委託、試験的にセメント工場での再利用（道路舗装に利用）を実施している。 個人的（農家）にはほしい人はいると思うが、窓口がない。 岩手漁業士（細川漁業士） カキ殻について、紫波町のぶどう園でほしい、運賃も半分持ちならいいと言っている。また藤沢町では肥料用として、1,000 円/㎥で買取りしている。値段の交渉には数社入れた方がよい 岩手（千田漁業士） カキ殻を農業に使う場合、殻を砕いただけでは土壌が硬くなる。焼成しないと使えない。

	カキの生産量は全国的にピークになっている。→バブル崩壊やノロウィルスの影響など→いいものでなければ売れない。産地間競争が顕著になってきた。生協等との小売店との直接取引で付加価値をつけて販売していく必要がある。 漁業士（宮城） 養殖の原点は種。今年のパターンは、H16 に似ている。種の発生が悪いので、時化に来てほしい。刺激があればいっきに産卵が進むと思う。 漁業士（岩手） 時化がこないと発生が進まないと思う。 漁業士（岩手） 地種（志津川種）と買い種（松島種）で身入りの違いはどうか。 漁業士（宮城） 地種のほうが身入りがよい。しかし抑制棚がないので厚い（つきすぎ）。→落ちる→３年やったがだめだった。 今年は放卵遅いが、９月でも原盤つくっても間に合うと思う。 漁業士（岩手） 大船渡湾の今日の水温は 23.5 度、積算水温に達している。当地区では 5～6 人が温とう処理を始めた。 漁業士（宮城） 今年は不作ではないのかと心配である。
結　　果	【ワカメ】 ○　話題提供（宮城；最知漁業士） ・　石村工業製の高速塩漬機の普及状況や使い勝手について教えてほしい。 ・　スイクダムシの被害が深めで養成している人に集中していたように思う。 岩手ではどうか。 ○　話題提供（岩手；千田漁業士） ・　スイクダムシの被害で 4/16 以降のワカメは商品にならず、生 57 トンを廃棄した。 ・　綾里では高速塩漬機が 17 台導入された。→タンク揚げがなくてよいなど好評である。ただ、大きいので広い保管場所が必要なことがデメリットである。 漁業士（宮城） 使用する塩の量はどうか。高速塩漬機で使用する飽和塩水は４回まで交換せずに使えるということだが。また、産直グループの掛け流し式による塩漬機の情報はあるか。 漁業士（岩手） 高速塩漬機ではそれほど塩の節約にならない。従来に比べ塩の使用量は１ｔ程度増となる。飽和塩水は 2 回使で交換するとのことである（汚れが目立つため）。 漁業士（岩手） 掛け流し装置は知人のを見たかぎりでは品質はよかったように見えた。 漁業士（宮城） 宮城唐桑地区では１人で石村工業製の高速塩漬機を３台買って、一日３ｔの生ワカ

	メの塩蔵処理を 15～16 時に終わらせる漁業者もいる。使い勝手が良いので、もう一台ほしいと言っている。品質はどうか。 宮城県漁協 石村工業製高速塩漬機は岩手では 40 台弱、宮城では３台の購入があった。　塩分、水分、ｐＨは通常分のものと変わらないし、若干色が良いと評価する買受業者もいる。 →買受業者からの認知も得て、来年以降は当該高速塩漬機が大量に普及する可能性がある 岩手県 石村工業製高速塩漬機は水技センターで調査し、製品に関するデータもあるため、改善資金の対象としている。産直グループの掛け流し装置はデータがないので対象としていない。きちんとした後追いデータがないものは対象としない考えである。 宮城漁業士 スイクダムシの被害は水深によって異なる（浅いと被外小、深いと被害大）と考えているがどうか。 岩手県漁業士 水深ではなく潮流が影響しているように感じている。 宮城県 通常沖側から発生、発生したら刈り取るしかない。情報共有が重要と考える。
結　　果	岩手漁業士 広田では 4/5 ごろからスイクダムシ被害で騒いだため、末崎も急いで刈取り、4/15 には終漁した。 スイクダムシ被害のワカメも等級を下げて売った。が、買い人がどう売るのか心配なところもある。 【ホタテ】 ○　情報提供（宮城；鈴木漁業士） ・　殻付きが売れない→漁場につるしているものをどう販売するかだ。 ○　話題提供（岩手；大和田漁業士） ・　広田では２～５月までに 80%を販売してしまう。販売単価は現在 250 円/kg。販売先は共販と地元市場である。 ・　5/20 にお採苗器を３回に分けて入れた。600～1，000 個/袋の付着を確認。昨年は採苗時期が遅れるという情報を軽視して、例年どおりの採苗を行って失敗し、青森県陸奥湾から１５万個入れた。今年は情報どおりの採苗を行ったので地種で十分やっていける。 宮城漁業士 地種が死ぬ。本来地種が良いはずなのだがエラカザリの寄生が原因しているのではないか。外洋は寄生率が低く、内湾ほど寄生率が高い。8～9 月に寄生しやすいと感じている。

結　　果	岩手県 水技と綾里漁協小石浜養殖研究会で試験実施、稚貝時に寄生すると生残率は落ちるようだ。エラカザリの寄生の少ないワカメ等の沖合漁場で半成貝まで育て、その後内湾のホタテ漁場に移すと、エラカザリの寄生率が低くなるようだ。エラカザリの幼生（ノープリウス）発生時期が 5～10 月なので、この時期にエラカザリ寄生率の高い漁場から遠ざけることが必要。 宮城漁業士 今期、ザラボヤ付着多いように感じるがどうか。 宮城県 春と秋に付着するようだ。体液は強酸性なので漁労作業に注意が必要。傷を付けると簡単に死ぬので、成長する前に早めに処理する必要がある。 宮城漁業士 岩手では７月いっぱい 250～260 円/kgの単価を持続し、８月に減産（死滅）したにも関わらず 210 円/kgまで単価が下がる原因は何か。 岩手漁業士 大市場である北海道の水揚げ次第と考える。 宮城漁業士 価格は経済状況で変わる。価格形成が生産者の思い通りとならないのであれば、安くても良いから生残率を良くすることが必要か。 それぞれの市場に、岩手と宮城の買受人両方が入り、流通を太くしていく必要があるのではないか。 宮城漁業士 生残率高くなると成長が悪くなるというデメリットもある。 【その他】 宮城漁業士 エゾイシカゲガイの情報があれば教えて欲しい。 宮城県 唐桑地区の青年部でもエゾイシカゲガイの試験養殖を取組み始めており、今度岩手に視察を考えている。 岩手県 生産量が増えている。 岩手県漁業士 エゾイシカゲガイの分散時期がカキ出荷時期と重なるので、カキ養殖との併用は難しいのではないか。 築地以外への販路拡大や知名度アップのためのＰＲが必要。これと同時に漁場（内湾）の選択も重要と考える。 岩手県漁業士 水産新聞に掲載された、宮城県石巻管内でのカキ工場のＬＬＣについて具体的に教

結　　果	えてほしい。 宮城県漁協 カキの産地偽装で石巻のカキ工場が倒産したことを受けて、県漁協が工場を買い取ってカキのブランド化をしようとしたものである。漁業者が出資し、社員となり販路拡大しようとする計画。魚価安定基金から２／３の補助が受けられるとのこと。 工場は、来月競売になる予定であるが、まだ、関係各機関での意識の醸成・統一ができていない。水産新聞が先走り報道したものである。 岩手漁業士 農業では民間企業参入が進み、漁業にもという動きがある。こうした動きを防ぐために地元が自助努力で参入を拒むよう漁業者共通の認識を持ちたい。 岩手漁業士 岩手は参加者が６名と少なくて申し訳ない、当会は隔年実施でも良いと思っていたが、本日の議論をきくと毎年実施した方が良いと考える。 宮城漁業士 毎年実施すべきと考えるので、できるだけ多くの漁業士が参加できる日程を組むよう努力したい。７月上中旬ごろが適当と考えるので両県事務局で検討していただきたい。

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">かき・ほたてがい養殖情報交換会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０６名
（２５名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>３２６，０２３円
（２３，１００円）</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">３２０，０００円
（２３，１００円）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">かき・ほたてがい養殖経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">１　開催日時　　平成２１年７月２９日（水）14：00～16：00
２　開催場所　　大船渡市　ホテル丸森
３　参加人数　　39 名（うち漁業士 25 名）
４　内容
(1)　話題提供　　①カキサミットに参加して（佐々木洋一指導漁業士）
②カキ小屋及び直売導入試験について（船本敬史指導漁業士）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">(1)　話題提供
①　キサミットに参加して（佐々木洋一指導漁業士）
石川大会への参加状況報告
②　キ小屋及び直売導入試験について（船本敬史指導漁業士）
カキ直売への取組みについて県内イベントでの売り込み、カキ小屋開設予定について説明
(2)　意見交換
①カキ養殖の今年の各地の生育状況等について
ア　各湾いずれも水温が低めに経過しているため例年より産卵が遅れている傾向があること。
イ　身入り等、成長は良好であり、日照不足による影響は特に見られないこと。
ウ　クロロフィル量が例年に比べ少なく、成長への懸念があること。
エ　寒流系のナガフジツボの発生が例年より多く見られること（大船渡湾）。
オ　市場では天然イワガキに比べて養殖イワガキの評価が低く、県全体での PR が必要であること。
カ　本県生食用カキの消費期限の延長について議論が必要ではないかとのこと。
②貝毒、ノロウイルスについて
宮城県漁協の貝毒検査体制についての情報提供
③ホタテ養殖の今年の各地の生育状況等について
ア　各湾とも地場採苗が好調で、付着稚貝数は 600 個～1,000 個と良好であり、必要数　　量は十分賄えるとの見通しであること。分散は例年通り８月下旬以降となること。
イ　半成貝、成貝の成長は各漁場とも概ね良好とのことであったが、生残率は漁場ごとに様々で、5 割以上死滅している漁場もあるのとこと。
ウ　ホタテエラカザリの寄生率は漁場ごとに異なるので、漁場の運用により寄生率を下げられる可能性があること。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">女性漁業士情報交換会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>106 名
（9 名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>326,023 円
（2,358 円）</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">320,000 円
（2,358 円）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">女性漁業士活動をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、今後の活動に資する。</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">1　開催日時　　平成２１年１０月２７日（火）11：00～14：00
2　開催場所　　田老町漁業協同組合会議室
3　参加人数　　15 名（うち漁業士９名）
4　内容
(1)　話題提供
「パソコンを使用した漁家経営の経理について」
講師：田老町漁協組合員　清水佐保里
田老町漁協総務指導課長　畠山昌彦
(2)　意見交換
ア　東日本女性漁業士交流会への対応について</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">(1)　話題提供「パソコンを使用した漁家経営の経理について」
（実際にパソコン画面をプロジェクターで写し、ソフトを走らせて説明された。）
講師　田老町漁業協同組合員　清水佐保里
中学生、小学生２次の母、新里から嫁いできた。商業高校出身ではあるが、習ってからしばらく経っており、経理については素人同然。６年前から漁家の経理を引き継いで、現在パソコンを使用して経理をしている。最初は、パソコンの使い方も判らなかったが、経理だけなら、それほどの知識は必要がない。常に税額が判るので、経営状況の把握ができ、年末まで税額が判らないで心配するようなことも無い。貸借対照表も自動的に更新されるので、資金管理が楽。入力する項目のパターンが限られているので、慣れればスムーズに入力できる。
講師　田老町漁業協同組合　畠山昌彦課長
以前は、申告時期に漁協職員４名が対応していた。漁家によっては、半日もかかる漁家もあり、大変であった。今は、組合員２０名程度がパソコンで経理しており、大分、対応が楽になった。漁協の対応も、プリントアウトされたものを受け取るだけで済む。入力も４つの方法があり、簡単な方法だと誰でも可能だと思う。固定資産については、償却期間等について漁協に問い合わせれば教えてもらえる。減価償却費も自動的に計算される。後からの入力も自動的に日付が遡れる。税額が常に確認できるので、節税が可能。
このソフトは、３年間のバージョンアップ付きで 25,000 円程度。パソコンは、中古でも可、１０万円も出せば最新型が入手できる。当然経理に使用するのであれば経費で落とせる。ソフトは各種販売されているので好きなのを使用してはどうか。中身も大きくは違わない。

(2)　意見交換
開催場所、時期、講演のテーマ等を協議し大筋で決め、総会の際に再度確認予定</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">わかめ・こんぶ養殖情報交換会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>103 名
（12 名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>326,023 円
（9,057 円）</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">320,000 円
（9,057 円）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">わかめ・こんぶ養殖経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">1　開催日時　　平成２１年１２年２５日(金)１１：３０～１５：００
2　開催場所　　宮古市　シートピアなあど
3　参加者数　　21 名（うち漁業士 12 人）
4　内　　容
（1）　話題提供
①　養殖漁場の漁業権制度について（水産振興課平嶋主査）
②　わかめ・こんぶ流通・消費の今後の見通しについて（県漁連小林支所長）
（2）　意見交換
①　各地区わかめの生育状況
②　流通加工対策について</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">（1）話題提供
①　養殖漁場の漁業権制度について（水産振興課平嶋主査）
漁業権の種類、漁場計画の策定について概要説明
②　わかめ・こんぶ流通・消費の今後の見通しについて（県漁連小林支所長）
ア　中国産ワカメの動向について
減産が予測されており、当面、輸入量が増加する要素は見られない。
イ　近年の消費動向について
県漁連が、地元業者７～８社を巡回して聞き取りを実施。デフレは、ワカメの価格にも影響している。塩蔵品は、大手量販店中心に販売されているが、安値指向により、量販店バイヤーからはＰＢ商品向けの納入原価引き下げが要請されており、県産１等品では採算がとれないとのこと。結果、「三陸産」を謳う商品の原材料として、宮城の２等品が使用されることにより、三陸ワカメのイメージダウンや輸入品との差別化が難しくなる。
また、製品価格の上昇により、首都圏の給食にはワカメが利用されなくなってきている。
ウ　次年度の流通動向について
平成 22 年は、越年在庫を抱えてのシーズンとなる見込み。特に、中芯は大量に在庫がある。中芯を利用した「おつまみ」ブームが去り、用途が無くなった為、安値続落するものと思われる。
地元業者としては、昨期の在庫を担保するため、来漁期のワカメに安値を付けたくないとのことである。また、岩手産として、20,000ｔの生産を希望</td></tr>
</table>

結　　果	していることもあり、安値による生産減を心配し、ある程度買支えたいとのこと。今後、どの様な値付けとなるか、注目していきたい。 （２）意見交換 ア　各地区のワカメの生育状況について 出席者により、各地の生育状況を報告。 イ　ワカメ塩漬け装置について、昨年度からのユーザーによる使用感を報告。 装置を利用した製品に対する買い受け人のクレームは無い。 組合冷凍庫による保管試験では、一昨年の塩蔵品でも変色は認められい。 装置利用により、労働力は軽減し、体への負担減は明白。従前は、メカブ処理に作業員を雇用していたが、現在は家族のみで操業し、作業員雇用は行っていない。 製品の品質は、表面の輝は出る。また、芯抜きがやり易い。 装置マニュアルでは、１回の稼動上限は 500kg とされているが、水技との試験により、最大 600kg／回までは、処理可能であった。 最盛期で 1,200kg／日の収穫となっていることから、塩蔵処理は１日２回転で可能となり、午前中に塩蔵が完了する。 当初は、塩蔵処理用のワカメ収容袋の規格が定まらず苦労したが、最近では@700 の袋（アサヤより入手）が３年程度利用できそうで、目処が立っている。 塩蔵処理に用いる飽和食塩水は、３～４日は利用できるとのことであるが、３日目位から濁りと臭いが発生し、利用が難しくなる。コストダウンのためには、食塩水の処理（濁り除去、脱臭等）が必要となりそう

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">青年漁業士等現地研修会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>102 名
（10 名　）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>326,023 円
（10,368 円）</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">320,000 円
（10,368 円）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">藻場の減少とウニの生育量について研修を受けるとともに、ウニ除去装置が実際に稼動しているところを見学</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">１　開催日時　　平成２２年１月２６日（火）13：00～15：30
２　開催場所　　吉浜漁港、吉浜漁業協同組合会議室
３　参加人数　　約 100 名（うち漁業士 10 名）
４　内容
(1)　現地視察
エンジンポンプ式ウニ・ツブ除去装置の稼動状況
(2)　研修及び意見交換
①磯焼け対策の技術開発及び各地の取組状況や磯焼け対策ガイドライン及び磯焼け対策の実践例について（水産工学研究所桑原グループ長）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">（現地視察）
漁協前の岸壁で東亜土木㈱が開発した、エンジンポンプ式ウニ・ツブ吸引装置の紹介とウニの漁獲試験が行われました。これは、潜水をしないで船の上からでもウニを効果的に除去することができる装置で、過去の試験では 10 分間に 500 個以上のウニを除去したとのことでした。
（研修及び意見交換）
焼け対策の技術開発及び各地の取組状況や磯焼け対策ガイドライン及び磯焼け対策の実践例について水産工学研究所の 桑原生物環境グループ長が説明した他、水産技術センターのウニ除去と有効利用試験について、水技センターの中野専門研究員から報告
質疑等は次のとおりです。
Ｑ：除去装置１台の値段は Ａ：72 万円（送料別、納期約１ヶ月）販売実績は、１台隠岐水産高校で購入（ツブ除去し、加工販売）
Ｑ：ホースの長さは（どのくらいの水深まで可能か）Ａ：設計上は水深６ｍまで可能
Ｑ：アサリは砂に潜っているが採捕は可能か Ａ：漁獲には使用したことはないが、圧力により潜っていても可能
Ｑ：吉浜ではカゴで除去しているが、効率が悪い。良い事例はないか Ａ：カゴを置いても、底質に隙間があるとウニが入り込む（カゴに入らないで）。転石帯よりも平らな場所がよい。
Ｑ：ウニ除去の時期は Ａ：コンブの種が出る直前（秋）。夏だとカキやフジツボ等が着く。
Ｑ：磯焼けは、何年間海藻が生えないと磯焼けと言うのか（１年か、10 年か） Ａ：いろんなパターンがある。（○○型磯焼け）。海況変動の周期によるのでは。
Ｑ：養殖始めてから天然の海藻生えなくなったと聞くが因果関係あるか Ａ：養殖場所は水深が深い、天然は浅場特には関係はないと思う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">漁船漁業情報交換会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>102 名
（6 名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>326,023 円
（8,625 円）</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">320,000 円
（8,625 円）</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">漁船漁業経営をめぐる現状や課題等について情報交換を行い、漁業士活動の促進を図る。</td></tr>
<tr><td>活動の内容</td><td colspan="4">1　開催日時　　平成２２年３月５日（金）13：15～16：30
2　開催場所　　久慈市漁業協同組合会議室
3　参加人数　　36 名（うち漁業士 6 名）
4　内　　容
(1)　基調講演　日本周辺における漁場環境と水産資源の変動、今後の漁業活動への提言
（北海道大学水産科学研究院桜井教授）
(2)　話題提供
ア　地域漁業への貢献をめざす新たな海況・気象情報の提供（漁業情報サービスセンター二平技術専門員）
イ　岩手県水産技術センターホームページリニューアルについて（水産技術センター横沢上席専門研究員）
ウ　「なべ漁場」問題の概要について（水産振興課赤平主任主査）
エ　ウニ資源の有効利用について（水産技術センター中野専門研究員）
(3)　意見交換
最近の漁模様について</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">(1)　基調講演　日本周辺における漁場環境と水産資源の変動、今後の漁業活動への提言
北西太平洋の漁業資源の状況及びタラ、スルメイカ等の資源状況について説明を受けた。
(2)　話題提供
ア　地域漁業への貢献をめざす新たな海況・気象情報の提供
漁業情報サービスセンターの情報サービス「エビスくん」の説明
イ　岩手県水産技術センターホームページリニューアルについて
水産技術センターの新たなホームページの説明
ウ　「なべ漁場」問題の概要について
「なべ漁場」問題のこれまでの経緯の説明
エ　ウニ資源の有効利用について
藻場の減少とウニ駆除によるウニ有効利用についての説明
(3)　意見交換
サケ刺し網の開放要望意見が出された。
 </td></tr>
</table>

④　地区活動実績発表大会

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">気仙地区漁村青壮年女性研究グループ活動実績発表大会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">JF 岩手漁青連気仙支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>１０会員
（６２人）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１２１，２３０円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">５０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">第 32 回気仙地区漁村青壮年女性研究グループ活動実績発表大会を開催し、漁青連青壮年部・女性活動の実績や研究成果の発表等を行い、意見交換を通じて、活動意欲の高揚と活動成果の普及を図る。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１．開催日時　平成２１年７月２１日（火）14:00～17:00
２．開催場所　大船渡市　岩手県漁連南部支所　会議室
３．参加者　　８６名
（青壮年部等及び女性部：６２名、高校関係者８名、その他１６名）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">１　実績発表
(1)「ホタテエラカザリについて」
綾里漁協　綾里養殖研究会　　発表者　松川　高祥氏
(2)「「キッピン」を守り育てる」
吉浜漁協　女性部　　発表者　欠畑　時子氏
２　特別発表
(1)「海洋的有効利用　～イロイロあるかも！」
県立高田高校海洋科学コース
発表者　３年　鎌田　翔太君・金野　涼太君
(1)「水産物の有効利用　新感覚缶詰～さばあだまっこ～誕生！」
県立高田高校食品科学コース
発表者　３年　佐々木　翼君・小松　弘明君
３　話題提供
「マツモ養殖及びカキ養殖について」
県水産技術センター　増養殖部主任専門研究員　小野寺光文氏

実績発表を通じて、会員グループ・女性部が、現在、取り組んでいる活動内容を理解することができた。
また、特別発表を通じて、地域の後継者としての位置づけが期待される高校生が取り組んでいる内容を理解することができた。
 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">釜石地区活動実績発表会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">ＪＦ岩手漁青連上閉伊支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>人
（４０人）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>６１，１３７円</td><td>うち基金助額</td><td colspan="2">５０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">漁業青壮年の活動について発表並びに研究討議を行い、知識と情報の相互交換と活動意欲の高揚を図るとともに、活動成果を広く普及し、もって沿岸漁業等の進行に寄与しようとするものである。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">期　日：　平成 21 年 7 月 30 日（水）
場　所：　岩手県水産技術センター　大会議室
参集者：　管内漁協青年部、女性部、漁協、県漁連、市町、県の担当職員等
（計 40 名）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">次の活動実績発表が行われた。
１　活動実績発表
唐丹町漁協　青年部　　佐々木　憲佑　氏
「ホヤ人工採苗への挑戦」～安全・安心な生産を目指して～
２　特別発表
白浜海づくり少年団（釜石市立白浜小学校）
「白浜海づくり少年団活動概要」
（　白浜街道清掃、海岸清掃、伝承の集い、わかめ養殖体験学習、
親子海釣り大会など）
地元小学生の漁業体験活動等の発表機会を設けたことにより、今後の活動に対する意欲向上が図られた。また、漁業指導等を通じて地域の担い手育成に寄与する青年部活動の内容が出席者に理解された。
３　特別報告
水産技術センター増養殖部　専門研究員　藤原　孝行
演題：「ワカメ等の病虫害について」
 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">第27回下閉伊地区漁村青壮年活動実績発表会</td></tr>
<tr><td>施　主　体</td><td colspan="2">ＪＦ岩手漁青連下閉伊支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>５１名</td></tr>
<tr><td>事　業　費</td><td>２３５，５５０円</td><td>うち基金助額</td><td colspan="2">６０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">地区内の研究グループ及び青年部等の活動意欲を高めるため、活動状況報告、研究発表、女性との意見交換等を行った。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　期　日　平成21年6月23日
２　場　所　宮古市　「ホテル近江屋」
３　参加者　小本浜漁協女性部
大沢養殖研究会、重茂漁協青年部、宮古漁協青壮年部
田老町漁協青壮年部、田野畑村漁協青年部、
山田町産業振興課、宮古市水産課
岩手県漁連、宮古水産高校、水産技術センター、宮古水産部</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">１　小本浜漁協女性部　活動実績発表
「私達の漁協婦人部活動」　工藤洋子氏
２　宮古水産高校　食品管理コース　活動発表
「三陸宮古に“ぞうか”あり！2009」～“ぞうか”を利用した食品及び食品素材の開発～
３　田老町漁協青壮年部　活動実績発表
「真崎わかめブランド確立への挑戦―陸上培養ワカメ種苗導入を目指して―
田老町漁協青壮年部長　吉水裕信氏
４　各研究会、青年部活動実績報告
（１）海の幸一握り運動
（２）田野畑ブランドのＰＲ活動（田野畑村漁協青年部）
（３）水産物の直販及び小学生を対象とした体験学習（大沢養殖研究会）
（４）ハタハタ資源管理等の情報収集（宮古漁協青壮年部）
５　研　修
（１）キタミズクラゲの動向と今年の海況
水産技術センター　横澤主任専研、後藤主任専研
（２）海藻類養殖の省力化
水産技術センター　大野主任専研</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">平成 21 年度 JF 青年・女性九戸地区活動実績発表大会</td></tr>
<tr><td>施　主　体</td><td colspan="2">JF 岩手漁青連九戸支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>（９３名　）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>９３，４０８円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">６０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">九戸地区の漁村青壮年が一堂に会し、活力ある漁村づくりに向け組織活動の充実と生活改善のための情報の交換を積極的に推進し、会員資質の向上を図る。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">1　期　日　；　平成 21 年 6 月 24 日（15 時から 17 時）
2　場　所　；　久慈市（グランドホテル）
3　参加者　；　93 名（研究グループ、女性部、漁協、久慈東高校、県、事務局等）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">（活動実績発表）
1　高校生の活動発表
「久慈東高校学校紹介と試作品の紹介について」
（県立久慈東高等学校）
「種市高校学校紹介」
（県立種市高等学校）
2　女性部の活動発表
「私たちの女性部活動」
（種市漁協種市女性部）
3　研究グループの活動発表
(1)「活動実績について」　（宿戸漁業研究会）
(2)「平成 20 年度漁友会の活動報告」　（野田漁友）
(3)「久喜漁業研究会の活動について」　（久喜漁業研究会）
(4)「なまこ調査状況について」　（小子内漁業研究会）
(5)「二子漁業研究会の活動について」　（二子漁業研究会）
※　宿戸漁業研究会の発表が地区の代表に選考された。

 </td></tr>
</table>

イ　漁業女性活動

課　題　名	魚食普及活動			
実施主体	大船渡市漁業協同組合女性部		構成員数（うち参加者数）	９６０名 （３２名）
総事業費	４６０，２４７円	うち基金助成額	１８０，０００円	
事業の目的	魚介類の美味しさをＰＲし魚介類の消費促進を図るとともに、地域の食文化の継承を目的とする。			
期日、場所 参加者等	１　大船渡小学校での魚食普及活動 （１）　実施日　　平成２１年１１月２０日（金） （２）　実施場所　大船渡市大船渡町　市立大船渡小学校 （３）　参加者　　女性部員１２名、漁協職員４名、市等関係者４名 ２　浜一番まつりでの魚食普及活動 （１）実施日　　平成２１年１１月２２日（日） （２）実施場所　大船渡市大船渡町　大船渡魚市場 （３）参加者　　女性部員２０名、漁協職員１名			
結　　果	１　大船渡小学校での魚食普及活動 （１）大船渡小学校の児童に対し、鮭を材料とする料理教室を開催した。 鮭のおろし方を指導し、イクラ、鮭のちゃんちゃ焼き、鮭のすり身汁を児童とともに調理した。 （２）参加した児童は、鮭の解体やいくら作りなどに興味津々で参加し、歓声をあげる場面もあった。試食会では、お代わりを連発し、皆、美味しそうに食べていた。魚に興味を持ってもらい、美味しさを知ってもらうことができた。 ２　浜一番まつりでの魚食普及活動 （１）　浜一番まつり来場者に対し、かき汁、イクラ丼、カキフライの販売や、カキ料理のレシピ等の配布、かき剥き体験を行った。 （２）　かき汁、イクラ丼、カキフライの販売し、好評であった。 お客様の中には、かきの調理法やいくらの漬け方を女性部員に教わる方もいて、魚介の美味しさのＰＲ、地域の食文化を知ってもらうことができた。 			

課　題　名	魚食普及活動			
実施主体	広田湾漁業協同組合女性部		構成員数（うち参加者数）	９５４名 （２２名）
総事業費	１６５，１２０円	うち基金助成額	９０，０００円	
事業の目的	住田町をはじめ、近隣市町村の住民に、東京築地市場で高い評価を得ている広田湾産の「カキ」「ホタテ」等の試食会を実施し、山・川・海の恵みへの感謝と魚食普及を図るとともに、併せて、わかしお石鹸（天然石鹸）を紹介し、漁場環境の保全の意識啓発を図る。			
期日、場所 参加者等	料理試食会「あがらんせ広田湾」の開催 １　実施日　　平成２２年２月６日（土） ２　実施場所　キャピタルホテル 1000 ３　参加者　　６０名（住田町及び陸前高田市内女性団体、広田湾漁協女性部員）			
結　　果	・　広田湾産「カキ」「ホタテガイ」「エゾイシカゲガイ」を材料とする料理を提供した。 ・　料理試食会のメニューは 13 品（カキ料理６品、ホタテ料理 6 品、エゾイシカゲガイ料理１品） ・　エゾイシカゲガイの美味しさをＰＲすることができた ・　今回の開催で２回目であったが、地元の生の声を聞くことができて良かった。 ・　気仙川流域の女性部の人達と、共通認識の下で、川の大切さを理解し、お互いの努力で漁場環境を守る必要性を再認識した。 ・　天然石鹸の利用拡大の大変さを認識した。 ・　今後地元の人達、いかに食べて頂くか、工夫が必要である。 　・　広田湾産水産物の良さをＰＲする良い機会なので今後も継続したい。 			

課　題　名	マツモ養殖・販売試験			
実施主体	小子内浜漁協女性部		構成員数（うち参加者数）	８５名 （５０名）
総事業費	１５６，８３３円	うち基金助成額	１５０，０００円	
事業の目的	洋野町で生産される種糸により、干出岩盤上におけるマツモ養殖とその収益性を検討し、地域特産品としての販売戦略の検討に資する。			
期日、場所 参加者等	マツモ養殖・販売試験 １　マツモ種糸を購入し、幹綱（40m、10 本）に巻き込んで岩盤漁場に設置した。（12 月） ２　１～３月の干潮時に、生育したマツモを刈り取り、出荷・販売した。 ３　直売等による販売方法も検討する。			
結　　果	１　マツモ種糸巻き込み 1,600m（50m×3 本直列×幹綱 10 本）の種糸を幹綱に巻き込みした。 ２　マツモ種糸付きロープを鉄筋に設置 海底から約 15ｃｍのところにロープを設置した。（昨年は 70cm） ３　販売結果 (1)　1 月 28 日　販売額 12,600 円 ・種市産直広場へパック詰出荷（100 円/パック(50g)×30 パック） ・北三陸天然市場（久慈市）へ生で 8 kg出荷（販売単価 1,200 円／kg） (2)　3 月 2 日　販売額 41,276 円 ・北三陸天然市場（久慈市）へ生で 13.9 kg出荷（販売単価 945 円／kg） ・直販で生 28kg（販売単価 1,050～945 円／kg） (3)　3 月 19 日　販売額 16,947 円 ・直販で生 17.7kg（販売単価 1,000～945 円／kg） 合計販売金額 70,823 円 			

(4)　異業種間交流事業　　（実績なし）

(5)　特認事業

ア　少年海づくり大会事業

課　題　名	大船渡地区海づくり少年団交流大会			
実施主体	大船渡地区漁業担い手育成推進協議会		構成員数（うち参加者数）	（１０８）
総事業費	２００，０００円	うち基金助成額	２００，０００円	
事業の目的	明日の漁業の担い手と漁業の理解者となる次代を担う少年の育成を図るため、管内海づくり少年団３団体の参加による連携交流を図る。			
期日、場所 参加者等	１　開催日時　平成 21 年 8 月 4 日（火）10:00～14:30 ２　開催場所　大船渡市（細浦港、大船渡湾、（社）岩手県栽培漁業協会） ３　参 加 者　108 名；少年団員 77 名、その他 31 名（学校関係者、漁業関係者、市町村関係者、北里大学インターンシップ、県関係者）			
結　　果	１　開会式；細浦港（観光船乗り場）開催 ２　乗船体験；観光遊覧船で細浦港～碁石灯台・島巡りクルージング ３　昼食；民宿「海楽荘」が魚介藻類を中心としたメニューを提供（ホタテ貝焼き、サンマ塩焼き、カツオたたき、メカブ、ワカメのみそ汁、冷凍みかん） ４　体験学習；（社）岩手県栽培漁業協会施設見学。アワビ、ウニ、ヒラメ、マツカワ等について説明を受ける。 ５　交流会；少年団の活動内容を各少年団代表が発表 ６　水産に関するクイズ大会；北里大学インターンシップ２名が企画運営、優勝者に景品を贈呈 ７　閉会式；各少年団代表から感想発表 ８　その他；解散時に（社）栽培漁業協会から少年団員にアワビ稚貝の殻を提供 			

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">宮古地区海づくり少年団交流大会</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">宮古地区漁業担い手育成推進協議会</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>５７名</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>１５０，０００円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">８６，８３７円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">県立宮古水産高等学校の施設及び船舶を利用した体験学習を通じ、水産業や海洋生物に関する知識を深めるとともに、地域内の少年団が集結して行動する機会を設定することにより、少年団交互の交流を深めた。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　期　日　平成21年８月１日（土）
２　場　所　県立宮古水産高等学校
３　参加者
織笠海づくり少年団、重茂海づくり少年団、赤前海づくり少年団
小本海づくり少年団、島越海づくり少年団、羅賀海づくり少年団</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">体験プログラムとして乗船体験コースと食品製造コースを設定した。
参加者の希望により、それぞれの体験コースに参加した。

１　乗船体験コース
リアス丸及び翔洋に乗船、宮古湾の周遊と船上からのつり体験を実施した。
２　食品製造コース
かまぼこ、イカめし、コンブ佃煮の製造
リアス丸体験乗船
３　各コース共通
夢缶詰つくり

 </td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">久慈地域少年海づくり大会</td></tr>
<tr><td>実 施 主 体</td><td colspan="2">岩手県漁業士会久慈支部</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>（１５８名）</td></tr>
<tr><td>総 事 業 費</td><td>１９５，４４６円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">１９５，４４６円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">海づくり少年団等の連携交流並びにつくり育てる漁業の推進を図る</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参 加 者 等</td><td colspan="4">（久慈地域少年海づくり大会）
・日　　時；平成 21 年 7 月 29 日（水）　9:00～16:00
・場　　所；開会式・昼食・閉会式（久慈市漁協）、リアス丸（久慈湾）、もぐらんぴあ（半崎）、マツカワ稚魚放流（久慈湊漁港）
・参集団体；管内の海づくり少年団（５団体）</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">・参加者　　（合計　158 名）
少年団　宿戸海づくり少年団　（児童；２２名、引率者；３名）
中野海づくり少年団　（児童；３１名、引率者；２名）
長内海づくり少年団　（児童；２７名、引率者；５名）
久喜海づくり少年団　（児童；１０名、引率者；３名）
堀内海づくり少年団　（児童；１８名、引率者；４名）
野田村海づくり少年団（不参加）
（１団体は地区行事等の都合により参加できなかった。）
（　小　計　１０８名　１７名　１２５名）
主催者　（代表；漁業士会久慈支部会長）　（　０名）
団体等　（漁協職員）　（　５名）
スタッフ（県、市町村、種市高校、栽培協会種市事業所職員）　（２８名）
・内　容
1　開会式(9:00～9:30)
主催者挨拶代読（久慈地方振興局；大村水産部長）
行程説明　（久慈地方振興局水産部；藤本）
2　リアス丸乗船体験（9:30～11:30、13:30～15:30）
リアス丸船内の見学と久慈湾内の航行体験を行った。
3　マツカワ稚魚放流（11:30～12:00）
久慈湊漁港岸壁でマツカワ稚魚（約１万尾）の放流を行った。
4　昼食（12:00～12:40）
久慈市漁業協同組合大会議室で昼食を食べた。
5　もぐらんぴあの見学（10:00～11:30、13:00～15:10）
もぐらんぴあの石油文化ホールと地下水族科学館を見学した。
6　閉会式(15:40～16:00)
講評・閉会宣言（久慈地方振興局；大村水産部長）</td></tr>
</table>

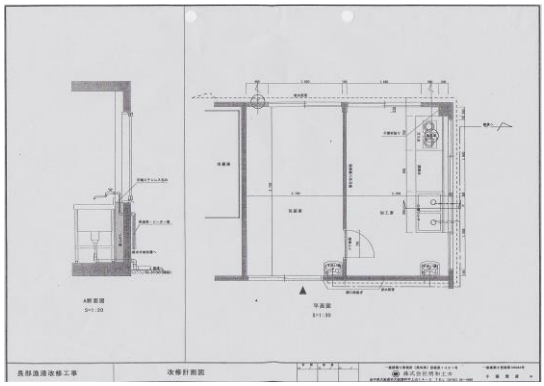
結　　果	

イ　その他（高付加価値向上等活動）

<table>
<tr><td>課　題　名</td><td colspan="4">カキ小屋及び直売導入試験</td></tr>
<tr><td>実施主体</td><td colspan="2">大船渡湾水産物流通研究グループ</td><td>構成員数（うち参加者数）</td><td>３名
（３名）</td></tr>
<tr><td>総事業費</td><td>２５２，７１３円</td><td>うち基金助成額</td><td colspan="2">２５０，０００円</td></tr>
<tr><td>事業の目的</td><td colspan="4">生産者自らが水産物の新たな販路開拓、付加価値向上、地産地消などに取り組み、流通チャネルの多様化を図りながら前浜資源の有効活用と消費拡大を図る。</td></tr>
<tr><td>期日、場所
参加者等</td><td colspan="4">１　県内イベントでの焼きかき販売及びかき小屋の PR
２　施設内（大船渡市）でのかき小屋実施</td></tr>
<tr><td>結　　果</td><td colspan="4">１　県内イベントでの焼きかき販売及びかき小屋の PR
県内のイベントに積極的に参加し、焼きかきの実演販売と「かき小屋」の PR を実施。
（イベント参加回数：８回、販売実績:3,360 千円）
【イベント参加内訳】
碁石観光まつり（5/4～5/5）
土日ｼﾞｬﾝﾎﾞ市（6/6～6/7、10/17～10/18）
盛岡大文化祭（6/21）
ふじ丸歓迎イベント（6/21）
いわて食と観光フェスタ（11/7～11/8）
大船渡浜一番まつり（11/22）
碁石椿まつり（2/13～2/14）
２　施設内（大船渡市）でのかき小屋実施
「かき小屋」は、大船渡市大船渡町で、２月６日（土）から５月３０日（日）までの土・日・祝日延べ３９日、40 分食べ放題（１人 2,000 円）で営業した。
来客数は、延べ２，５６９名であった。売上実績は、６４８万円でした。
営業７週目の３月 21 日（日）には来客者 1,000 人目に達し、1,000 人目のお客様には記念品贈呈した。

かき小屋開所式での試食会(2/1)

かき小屋スタッフ</td></tr>
</table>

課　題　名	地域特産品開発			
実施主体	広田湾漁業協同組合女性部気仙支部		構成員数（うち参加者数）	１４７名 （　１４７名）
総事業費	６４０，０００円	うち基金助成額	２９０，０００円	
事業の目的	漁業女性部主体による地元水産物の有効利用と地域特産品の開発による付加価値向上を図る。			
期日、場所 参加者等	１　広田湾漁業協同組合気仙支所荷さばき所の一部を模様替えして食品製造加工室を整備し、特産品開発活動を行う。 ２　工事内容　内装工事、仕切り壁工事、電気配線工事、給排水設備工事			
結　　果	１　経緯 これまで、廃棄処分していたコンブ元葉の有効利用について付加価値向上のために試作品を製造していた。そして、佃煮等の商品化の目処がついたので、総菜製造の営業許可取得のため製造加工室の整備が必要となった。 ２　効果 （１）施設整備後は、総菜製造の営業許可を取得し食品加工に取り組むとともに、土曜市等イベントでの女性部による浜料理の調理にも用いた。 （２）価格が安く、捨てられていた水産物の有効利用を進め、加工製造の共同作業による部員間の交流を深めることができた。 （３）地域産業を学習するため交流のある中学生に対し、本施設を活用し魚食文化を伝えることができた。  			

6　水産高校等を中心とした地域の漁業・水産業の担い手育成プロジェクト事業実績（国庫補助事業）

1　事業の目的

水産高校と地域漁業・水産業界が連携し、生徒の現場実習等に取り組み、より実践的な専門教育の充実と地域漁業・水産業界のニーズに応えられるような専門的知識・技能を有する人材の育成に向けて、そのノウハウを構築するため、「水産高校等を中心とした地域の漁業・水産業の担い手育成プロジェクト事業」を実施した。

2　事業実績の概要

1．地域で担うべき人材像		漁業や関連産業に就業し、地域貢献や関連技術・技能の習得に意欲的に取り組み、社会人としての素養などの基本的な資質を身につけ、地域の漁業、水産業界を担う人材。
2．実習内容	生徒の現場実習	日本版デュアルシステムとして①定置網実習　②コンブ養殖実習　③種苗生産管理実習　④サケのふ化飼育実習　⑤カキ養殖実習　⑥水産食品の衛生管理実習の各実習を行った。
	技術者等による学校での実践的指導	指導漁業士等を講師として次の実践的指導を行った。 ①宮古湾のニシン資源の回復に向けた取り組みと花見ガキの生産について講義。 ②学校の栽培実習場において、カキ、ホタテガイ養殖の実技指導。
	教員の高度技術習得	教員の技術指導力向上をねらいとして①カキ養殖施設の管理についての研修　②自然再生、生きものの棲み処づくりの研修　③ダイブマスター研修を行った。
	人材育成に資するその他の取組（共同研究等）	①水産高校との共同研究により未利用海藻であるスジメ（ぞうか）の特産品開発を行った。 ②小中学校等との連携を図るため、地球環境を考える教室、新巻サケづくり体験学習等を開催した。
	キャリアパスの研究・検討	水産高校等からの漁協・漁業会社等への優先的雇用システム（キャリアパス）について研究・検討した。
3．実施体制	教育界と産業界の連携など	地域の漁協、水産加工組合及び水産会社等と連携し、県教育委員会、水産高校と協働でネットワークを構築した。
	人材育成連携推進委員会の役割・予定開催回数	漁業や水産関連産業の人材育成のあり方と、それを実現するための具体的な方策について検討を行った。開催回数２回/年
	コーディネーターの活動	実習先、研修先のリストアップ化、コーディネート、進捗管理など、学校と産業界の橋渡し及びネットワーク化の構築に資する活動を展開した。
	自立へ向けた取組	産業界、学校、行政が連携し、継続して取り組んでいくのに必要な地域連携組織（宮古地域水産業担い手育成推進連絡会議）を立ち上げ、その推進を図った。
	その他特色ある取組み	漁家子弟が家族経営である沿岸漁業へ就業するように促進する方策についても検討した。

3 実施実績

実習名	実施日 始期	実施日 終期	実施日 日数（実習した日数）	実習時間（一人当たり）	実施場所	企業名・講師名	学校名	参加学科	学年	参加人数	教育課程上の位置づけ
生徒の現場実習（見学以外）											
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	6月29日	9月30日	12	72	宮古市	宮古漁業協同組合	宮古水産高校	海洋技術科	2	6	漁業
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	6月23日	10月20日	12	72	宮古市	重茂漁業協同組合	宮古水産高校	海洋技術科	2	6	栽培漁業
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	7月14日	1月21日	12	72	宮古市	宮古漁業協同組合	宮古水産高校	海洋技術科	2	4	栽培漁業
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	9月10日	1月21日	12	72	宮古市	宮古漁業協同組合	宮古水産高校	海洋技術科	2	8	栽培漁業
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	6月23日	11月25日	12	72	宮古市	宮古漁業協同組合	宮古水産高校	海洋技術科	2	9	栽培漁業
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	7月1日	10月15日	12	72	宮古市	(株)おがよし	宮古水産高校	食品家政科	2,3	3	水産食品管理
日本版ﾃﾞｭｱﾙｼｽﾃﾑ	9月10日	11月26日	11	66	宮古市	共和水産(株)	宮古水産高校	食品家政科	2	2	水産食品管理
産業現場実習	6月29日		1	6	三陸沖	共同実習船(翔洋)	高田高校	海洋ｼｽﾃﾑ科	1	36	水産基礎
産業現場実習	7月6日		1	6	三陸沖	共同実習船(翔洋)	久慈東高校	総合学科	2,3	15	漁業
合計										89	
生徒の現場実習（見学のみ）											
現場見学	8月25日		1	6	洋野町	小子内浜漁業協同組合 岩手県栽培漁業協会	宮古水産高校	海洋技術科	1	35	水産基礎
現場見学	10月15日		1	6	山田町、釜石市	川秀（株）、小野食品(株)	宮古水産高校	食品家政科	1	18	水産基礎
合計										53	
技術者等による学校での実践的指導											
養殖施設実技指導	10月19日	11月24日	2	6	宮古水産高校	船越漁協指導漁業士	宮古水産高校	海洋技術科	2	21	栽培漁業
カキ養殖講習	11月2日	12月8日	2	4	宮古水産高校	宮古漁協指導漁業士	宮古水産高校	海洋技術科	2	39	栽培漁業
ホタテ養殖講習	12月9日		1	2	宮古水産高校	船越漁協指導漁業士	宮古水産高校	海洋技術科	2,3	52	栽培漁業
合計										112	
教員の高度技術習得											
ｽｸｰﾊﾞ指導者養成講習	8月24日	8月28日	5	40	茨城県立海洋高校	(法)教員研修ｾﾝﾀｰ	宮古水産高校	教員		1	
カキ養殖技術研修	12月10日	12月11日	2	8	宮古市	宮古漁協指導漁業士	宮古水産高校	教員		1	
合計										2	
その他の活動											
共同研究	5月15日	2月14日			宮古水産高校	宮古水産加工業協同組合	宮古水産高校	食品家政科	3	3	課題研究
小中学校等との連携	7月29日	7月30日	2	12	宮古水産高校	市内中学校	宮古水産高校				
小中学校等との連携	8月1日		1	6	宮古水産高校	宮古地区海づくり少年団	宮古水産高校				
小中学校等との連携	10月14日	10月21日	2	6	宮古水産高校	高等支援学校	宮古水産高校	食品家政科	3	15	水産食品製造
キャリアパス研究検討	10月16日	11月16日	2	7	宮古水産高校 県宮古合同庁舎	函館短期大学講師	宮古水産高校	教員、事業協力団体等		34	
合計										52	

4　経費の内訳

区分	内訳	積算根拠	金額	備考
事業調整	報償費 旅費 需用費	コーディネーター謝金 163 日・延べ 588 時間×2500 円＝1,470,000 円 コーディネーター交通費 163 日・延べ 5,265 ㎞×25 円/㎞＝131,625 円 コピー用紙 1,545 円×１箱（500 枚×5 冊）×1.05＝1,622 円	1,603,247 円	
漁業・水産実習 ①　漁業実習 ②　企業実習	報償費 需用費 用船料 報償費	実習指導謝金 （定置網） １人×12 日延べ 65 時間×3,900 円×2 漁場＝507,000 円 （コンブ養殖） １人×5 日延べ 25 時間×3,900 円×3 漁家＝292,500 円 1 人×7 日延べ 35 時間×3,900 円＝136,500 円 小計　429,000 円 （カキ・ホタテガイ養殖） 1 人×12 日延べ 60 時間×3,900 円＝234,000 円 1 人×12 日延べ 65 時間×3,900 円＝253,500 円 1 人×12 日延べ 58 時間×3,900 円＝226,200 円 小計　713,700 円 （種苗生産・漁場環境） 1 人×12 日延べ 67.5 時間×3,900 円＝263,250 円 （さけふ化場） 1 人×12 日延べ 67 時間×3,900 円＝261,300 円 1 人×11 日延べ 60.5 時間×3,900 円＝235,950 円 小計　497,250 円 計　2,410,200 円 ライフジャケット　25 着×3,000 円＝75,000 円 ヘルメット 14 個×1,870 円＝26,180 円 水産用カッパ　33 着×6,700 円＝221,100 円 水産用長靴　33 足×2,450＝80,850.円 胴付長靴　12 足×9,200 円＝110,400 円 ゴム手袋　33 双×280 円＝9,240 円 軍手その他消耗品一式　34,789 円 計　557,559 円×1.05＝585,436 円 0 円 実習指導謝金（水産加工場） 1 人×12 日×6H×3,900 円＝280,800 円 1 人×11 日×６H×3,900 円＝257,400 円 計　538,200 円	3,533,836 円	
学校での実践事業	報償費	講師謝金 講義 3,900 円×2H×３人＝23,400 円 実技 3,900 円×3H×３人×２日＝70,200 円	93,600 円	
高度技術習得	報償費	講師謝金 3,900 円×４H×1 人×２日＝31,200 円	31,200 円	
共同研究	需用費	研究材料等 スジメ原藻 160 ㎏×100 円（消費税込み）＝16,000 円 スジメスライス加工 3,182 パック×23 円＝73,186 円 トップ容器・シール 3,193 個×15 円＝47,895 円 レッテル 3,000 枚×16.5 円＝49,500 円 のぼり（ポール付）10 本＝44,500 円 段ボール箱 60 個その他消耗品一式　10,200 円 小計　225,281 円×1.05＝236,545 円	252,545 円	
キャリアパス	報償費 旅費	助言者謝金 １人×2 日延べ 6.5 時間×5,700 円＝37,050 円 助言者旅費（函館市―宮古市・１泊２日） １人×36,960 円×2 回＝73,920 円	110,970 円	
再委託費			0 円	
合計			5,625,398 円	

5　地区協議会の運営

(1)　大船渡地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協 議 内 容	備考
未開催				H22.2.28チリ地震津波のため開催せず

(2)　釜石地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協 議 内 容	備考
未開催				同上

(3)　宮古地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協 議 内 容	備考
平成22年3月31日		18	・平成22年度岩手県漁業担い手育成基金事業（宮古地区）の計画について ・平成21年度岩手県漁業担い手育成基金事業（宮古地区）の実施状況について ＊チリ地震津波対応のため、委員を招集せず、書面で開催した。	

(4)　久慈地区協議会

開催月日	開催場所	委員構成(人)	協 議 内 容	備考
平成22年2月10日 	久慈地区合同庁舎	18名 （13名出席）	・ 平成21年度久慈地区漁業担い手育成事業（基金、県）実績（報告） ・ 平成22年度久慈地区漁業担い手育成事業実施計画	

6　事業実施状況の推移

(1)　青少年漁業体験・交流事業

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)	(児童・生徒等の漁業体験・交流活動)
大船渡地区3少年団　150千円	大船渡地区3少年団　200千円	大船渡地区　3少年団＋長部小　200千円	大船渡地区　3少年団　150千円
釜石地区　5少年団　250千円	釜石地区　4少年団　200千円	釜石地区　４少年団　200千円	釜石地区　４少年団　200千円
宮古地区　4少年団+田野畑小・中　300千円	宮古地区　4少年団+田野畑小・中　300千円	宮古地区　4少年団+田野畑小　300千円	宮古地区　4少年団+田野畑小　300千円
久慈地区　6少年団　300千円	久慈地区　6少年団　300千円	久慈地区　6少年団＋平山小　329千円	久慈地区　6少年団＋平山小　350千円
一日体験入学　3高校　150千円	一日体験入学　3高校　150千円	一日体験入学　3高校　150千円	一日体験入学　4高校　200千円
（高校クラブ等）	（高校クラブ等）	（高校クラブ等）	（高校クラブ等）
加工品開発・漁場環境調査（広田水産高）　50千円	加工品開発・漁場環境調査（広田水産高）　100千円	加工品開発・漁場環境調査(高田高)100千円	加工品開発・漁場環境調査(高田高)100千円
ホラアナゴ製品、宮古湾環境調査（宮古水産高）　100千円	水産物の有効利用、宮古湾環境調査（宮古水産高）　100千円	水産物の有効利用、宮古湾環境調査（宮古水産高）　100千円	未利用資源利用、宮古湾環境調査（宮古水産高）　100千円
新巻水産物加工実習（田野畑分校）　50千円			
○少年海つくり大会等（4地区）　599千円	○少年海つくり大会等（4地区）　482千円	○少年海つくり大会等（4地区）　446千円	○少年海つくり大会等（4地区）　482千円
○少年団・団旗、制服（長内）　300千円			
計　31件　2,249千円	計　29件　1,832千円	計　29件　1,825千円	計　27件　1,882千円

(2)　漁業技術・経営研修事業

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
（国内研修）	（国内研修）	（国内研修）	（国内研修）
フォークリフト講習会(上閉伊漁青連)80千円	カキの大規模経営等視察（漁業士会大船渡）300千円	市場流通調査(広田湾小友青壮年部）210千円	全国カキサミット(広田湾青壮年部)250千円
函館・藻場造成技術視察（漁青連下閉伊）　100千円	クレーン運転技術研修（漁青連上閉伊支部）　220千円	玉掛け技能研修(漁青連上閉伊支部）220千円	カキ市場調査（細浦研究会）　100千円
インターネット研修（漁青連下閉伊）50千円	潜水技術研修(船越湾潜水グループ)155千円	ハタハタ、イワガキ資源研修（漁青連下閉伊支部）　100千円	固定式クレーン講習（漁青連上閉伊支部）　30千円
	ホヤ養殖視察（漁青連下閉伊支部）　23千円	潜水技術研修(船越湾潜水グループ）125千円	養殖カキ生産流通状況視察（漁青連下閉伊）100千円
	全国青年女性漁業者交流会(漁青連)250千円	全国青年女性漁業者交流会(漁青連)250千円	養殖カキオーナー制度視察（漁業士会宮古）400千円
	同　上　〈漁協女性部連連絡協）　250千円	同　上　〈漁協女性部連連絡協）　250千円	全国青年・女性漁業者交流会〈漁青連）　250千円
			同　上　〈漁協女性部連連絡協）　250千円
（海外研修）　なし	（海外研修）　なし	（海外研修）　なし	（海外研修）　なし
計　3件　230千円	計　6件　1,198千円	計　6件　1,155千円	計　7件　1,380千円

(3)　漁業青壮年・女性活動事業

①　漁業青壮年活動

ア　試験研究等

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
エゾイシカゲガイ養殖試験（米崎）100千円	漁場環境モニタリング調査（小友）350千円	漁場環境モニタリング調査（小友）20千円	ムール貝養殖事業化試験（綾里研究会）200千円
マガキ種苗生産試験（小友）70千円	イワガキ利用試験〈大槌）120千円	カキ流通について講演〈米崎）113千円	ホヤ人工採苗量産化試験（白浜養殖組合ホヤ部会）80千円
ヒジキ養殖試験（越喜来）70千円	ホヤ採苗試験（大槌）60千円	漁場環境調査（吉浜漁協青年部）350千円	釜石湾静穏域漁場適正化試験（釜石湾青年部）100千円
イワガキ養殖試験（釜石湾）90千円	漁場生産性向上試験〈大槌）350千円	漁場生産性向上試験〈大槌）185千円	エゾイシカゲガイ採苗試験(釜石湾青年部)90千円
ホヤ採苗試験（大槌）60千円	殻付カキ販路開拓試験〈大沢）180千円	ホヤ採苗試験(白浜養殖組合ホヤ部会)60千円	養殖マツモ販路開拓試験(釜石湾青年部)150千円
カキ漁場環境調査（宮古）70千円	ホヤ採苗試験（野田）100千円	漁場適正化試験(釜石湾漁協青年部)100千円	ホヤ人工採苗量産化試験（唐丹ホヤ養殖組合）80千円
アワビ養殖試験（久慈）200千円		ホヤ採苗試験(唐丹町・ホヤ養殖組合)60千円	岩盤付着生物等除去試験(田老町青年部)70千円
		ホヤ養殖試験（重茂漁協青年部 ）133千円	水産物販路開拓ＰＲ事業(大沢養殖研究会)100千円
		ワカメ塩漬装置実証試験(宮古漁業士会)308千円	ホヤ人工採病養殖試験（野田漁友会）200千円
		ホヤ人工採苗養殖試験(野田漁友会)130千円	
計　7件　660千円	計　6件　1,160千円	計　10件　1,460千円	計　9件　1,070千円

イ　漁業青壮年交流活動

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
支部情報交換会（気仙漁青連）50千円	支部情報交換会（漁青連気仙）50千円	支部情報交換会（漁青連気仙）50千円	支部情報交換会（漁青連気仙）50千円
漁業青年のつどい（県漁青連）100千円		県漁村青年のつどい〈漁青連）0千円	県漁村青年のつどい〈漁青連）0千円
全国青年女性漁業者交流大会（県漁青連）250千円			
計　3件　400千円	計　1 件　50千円	計 2件　50千円	計 2件　50千円

ウ　漁業士活動

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
宮城漁業士交流会（漁業士会大船渡）80千円	宮城漁業士交流会（漁業士会大船渡）35千円	宮城漁業士交流会（漁業士会大船渡）126千円	宮城漁業士交流会（漁業士会大船渡）30千円
漁業士会会報等活動（県漁業士会）295千円	漁業士会会報等活動（県漁業士会）340千円	漁業士会会報等活動（県漁業士会）370千円	漁業士会会報等活動（県漁業士会）320千円
計　2件　375千円	計　2件　375千円	計　2件　496千円	計　2件　350千円

エ　地区活動実績発表大会

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
地区活動発表大会（大船渡）50千円	地区活動発表大会（大船渡）50千円	地区活動発表大会（大船渡）50千円	地区活動発表大会（大船渡）50千円
地区活動発表大会（釜石）50千円	地区活動発表大会（釜石）50千円	地区活動発表大会（釜石）50千円	地区活動発表大会（釜石）50千円
地区活動発表大会（宮古）60千円	地区活動発表大会（宮古）60千円	地区活動発表大会（宮古）60千円	地区活動発表大会（宮古）60千円
地区活動発表大会（久慈）100千円	地区活動発表大会（久慈）100千円	地区活動発表大会（久慈）100千円	地区活動発表大会（久慈）60千円
計　４件　260千円	計　４件　260千円	計　４件　260千円	計　４件　220千円

② 漁業女性活動

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
小学生魚食普及（大船渡女性部） 100千円	東京、横浜魚食普及〈広田、女性部） 350千円	東京、魚食普及〈広田、女性部） 289千円	地元、魚食普及（広田湾女性部） 90千円
農山女性交流（釜石東部） 40千円	盛岡、前沢魚食普及〈綾里・女性部） 50千円	横浜、奥州市魚食普及(大船渡・女性部)303千円	地元、魚食普及〈大船渡市女性部） 180千円
青少年魚食普及（大槌） 50千円	奥州市、地元魚食普及(大船渡・女性部)350千円	地元魚食普及（広田湾・女性部） 156千円	マツモ養殖、販売（小子内浜女性部）150千円
缶詰製品開発試験（浜岩泉浦） 60千円	青少年魚食普及（大槌・女性部） 50千円	漁場環境保全啓発(釜石湾白浜浦女性部) 60千円	
全国青年女性漁業者交流大会(県女性連)250千円	田野畑女性部との交流会(船越・女性部)50千円	水産加工品開発(釜石東部・女性部） 90千円	
女性連研修会（花巻） 50千円	５０周年記念講演（県漁協女性連） 100千円	産直市の開催（大槌・女性部） 200千円	
		マツモ養殖、販売（小子内浜・女性部）200千円	
計 5件 550千円	計 6件 950千円	計 7件 1,298千円	計 3件 420千円

(4) 異業種間交流事業

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
林業者交流、釜石槌植樹(上閉伊漁青連)100千円	農林漁業者交流会（大槌・青年部） 50千円	なし	なし
商工関係者との交流（漁青連九戸） 50千円	同 上 （唐丹・青年部） 50千円		
計 2件 150千円	計 2件 100千円	計 0件 0千円	計 0件 0千円

(5) 地区協議会活動

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
大船渡地区協議会 9千円	大船渡地区協議会 1千円	大船渡地区協議会 12千円	大船渡地区協議会 0千円
釜石地区協議会 0 円	釜石地区協議会 0千円	釜石地区協議会 0千円	釜石地区協議会 0千円
宮古地区協議会 33千円	宮古地区協議会 15千円	宮古地区協議会 41千円	宮古地区協議会 0千円
久慈地区協議会 32千円	久慈地区協議会 21千円	久慈地区協議会 41千円	久慈地区協議会 47千円
計 4件 73千円	計 4件 36千円	計 4件 94千円	計4件 47千円

(6) 特認事業

平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
異常冷水シンポジューム（漁業士会） 75千円	なし	新規漁業担い手育成研修（大槌町） 150千円	カキ小屋直売導入試験(大船渡研究グループ) 250千円
			地域特産品開発促進(広田湾女性部気仙支部)290千円
計 １件 75千円		計 １件 150千円	計 2件 540千円

合計

平成18年度	平成１９年度	平成２０年度	平成21年度
60件 5021千円	59件 5961千円	64件 6787千円	59件 5959千円

7　財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書

第１章　総則

（目的）

第１条　この業務方法書は、財団法人岩手県漁業担い手育成基金（以下「基金」という。）寄附行為第38条の規定に基づき、基金の業務の実施について基本的な事項を定め、もって業務の適正な運営を図るものとする。

（業務）

第２条　基金は、業務の公共的重要性にかんがみ、県、市町村、漁業団体等との密接な連携のもとに、その業務を効果的に運営するものとする。

第２章　漁業担い手育成基金地区推進協議会活動

（目的）

第３条　漁業担い手育成対策を推進するため、地方振興局水産部単位に設置する漁業担い手育成基金推進協議会（以下「地区協議会」という。）に対し、活動費を支出するものとする。

（活動内容）

第４条　地区協議会の活動内容は、基金事業の推進並びに地区の漁業担い手育成対策に関する内容とする。

（申請及び決定）

第５条　地区協議会長は、助成事業に係る事業実施主体からの助成金申請書をとりまとめ理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長に通知するものとする。

（助成）

第６条　決定通知を受けた地区協議会長は、事業実施主体に通知するものとする。

（報告）

第７条　地区協議会長は、事業終了後事業実施主体に対し、速やかに報告書を理事長に提出できるよう指導するものとする。

第３章　助成事業

第１節　青少年漁業体験・交流事業

（目的）

第８条　海づくり少年団等の活動、地域の児童生徒等を対象にした漁業体験学習・交流活動等並びに高等学校のクラブ活動等において漁業に関する学習活動等を実施する場合に

その経費を助成し、地域漁業に対する理解を深めるとともに、将来を担う漁業後継者の育成・確保に資する。

（資格）

第９条　助成を受けることができる者は次のとおりとする。

(1)　海づくり少年団

(2)　前号に類する青少年集団

(3)　漁業体験学習等を実施する漁協、漁業青年組織、実行委員会等

(4)　沿海地区に設置されている高等学校

（助成額）

第10条　助成の対象となる経費は、海づくり少年団等の活動経費、漁業体験学習・交流活動等経費並びに漁業に関するクラブ活動等経費とし、助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第11条　助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第12条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第13条　申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第２節　漁業技術・経営研修事業

― １ 国内研修 ―

（目的）

第14条　先達漁家、企業体、市場、試験研究機関等において、漁業経営、漁業技術又は流通上の課題解決のための研修をする者に対し経費を助成し、地域漁業の中核者として資質の向上を図る。

（資格）

第15条　助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

(1)　現に漁業に従事し、研修終了後も引き続き漁業に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者

(2)　働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者

(3)　研修者の引率をする漁協・市町村、県関係職員１名をも対象とする

（研修期間）

第16条　研修期間は、10日間以内の滞在研修とする。

（助成額）

第17条　助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第18条　助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第19条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第20条　申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

― ２ 海外研修事業 ―

（目的）

第21条　漁業の国際化、高度化に対応して、研修を通じて国際的漁業を体得しようとする者に対し経費を助成し、国際的な視野の涵養と経営技術の向上を図る。

（事業内容）

第22条　全国漁業協同組合連合会が実施する「漁協系統海外研修」又は漁業及び漁家生活を内容とした自主的な海外研修とする。

（資格）

第23条　助成を受けることができる者は、次に掲げる要件を備えた者でなければならない。

(1)　研修終了後漁業又は漁業に関連する業務に従事すると見込まれる概ね45歳未満の者

(2)　働きながら学び得る資質、体力及び協調性を有する心身ともに健全な者

（研修期間）

第24条　研修期間は、20日以内の滞在研修とする。

（助成額）

第25条　助成の対象となる経費は、申請者が個人負担する研修旅費及び教材費とし助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第26条　助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第27条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第28条　申請者は、研修終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第３節　漁業青壮年・女性活動事業

― １ 漁業青壮年活動 ―

（目的）

第29条　漁業経営の改善等に向けた活動を実施する漁業青壮年グループ等に対し、その活動経費を助成し、組織活動の充実を図る。

（資格）

第30条　助成を受けることができる者は次のとおりとする。

(1)　漁業青壮年グループ

(2)　岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会

(3)　岩手県漁村青壮年研究グループ連絡協議会支部

(4)　岩手県漁業士会

(5)　岩手県漁業士会支部

（助成額）

第31条　助成の対象となる経費は、新技術定着化試験等の試験研究、漁業青壮年交流活動並びに地区活動実績発表大会等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第32条　助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第33条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第34条　申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

― ２ 漁業女性活動 ―

（目的）

第35条　地域活性化等に向けた活動を実施する漁業女性グループ等に対し、その活動経費を助成し、活動意欲の高揚を図る。

（資格）

第36条　助成を受けることができる者は次のとおりとする。

(1)　漁業女性グループ

(2)　岩手県漁協女性部連絡協議会

(3)　岩手県漁協女性部連絡協議会支部

(4)　漁協女性部

（助成額）

第37条　助成の対象となる経費は、地域特産品開発、魚食普及活動並びに漁業女性交流活動等の活動経費とし、助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第38条　助成を受けようとする者は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第39条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第40条　申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第４節　異業種間交流事業

（目的）

第41条　広域で行う漁業に従事する青壮年と他産業従事青壮年との交流活動に対し、その経費の一部を助成し、仲間づくり及び青壮年相互の理解を促進する。

（事業内容）

第42条　事業内容は、話し合い、各種スポーツ、レクリエーション、漁業体験、奉仕活動及びこれらに類するものとし、参加者相互の交流とふれあいに配慮するものとする。

（資格）

第43条　助成を受けることができる者は、交流会を主催する青壮年を中心とする実施組織（以下「実施組織」という。）とする。

（助成額）

第44条　助成の対象となる経費は、交流会開催経費等とし、助成基準等は別に定める。

（申請及び決定）

第45条　助成を受けようとする実施組織は、別に定める助成金申請書に理事長が必要と認める書類を添えて、地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第46条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第47条　申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第４章　特認事業

（特認事業）

第48条　理事長は、予算の範囲内で担い手育成対策上特に実施する必要があると認められる事業（以下「特認事業」という。）を実施することができるものとする。

（対象）

第49条　助成を受けることができる者は、第９条、第30条及び第36条のいずれかの資格に該当する者並びに漁業団体とする。

（申請及び決定）

第50条　助成を受けようとする者は、特認事業を希望する場合、関係団体等と協議のうえ別に定める助成金申請書を地区協議会長を経由して理事長に提出するものとする。

２　理事長は、提出のあった申請の内容を審査して、その適否を決定し地区協議会長を経由して申請者に通知するものとする。

（助成）

第51条　決定通知を受けた申請者は、別に定める助成金請求書を地区協議会長を経由して理事長に提出し、その提出をもって助成するものとする。

（報告）

第52条　申請者は、事業終了後速やかに別に定める報告書を地区協議会長を経由して理事長に提出しなければならない。

第５章　雑則

（委任）

第53条　この業務方法書の施行について必要な事項は、理事長が別に定める。

（附則）

この業務方法書は、平成５年３月16日から施行する。

この業務方法書は、平成６年４月１日から施行する。

この業務方法書は、平成15年３月27日から施行する。

この業務方法書は、平成16年４月１日から施行する。

8　財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務細則

第１章　総則

（趣旨）

第１条　財団法人岩手県漁業担い手育成基金の業務運営に関しては、財団法人岩手県漁業担い手育成基金業務方法書（以下「業務方法書」という。）第53条の規定により、次のとおり定める。

第２章　助成事業

第１節　青少年漁業体験・交流事業

（助成額）

第２条　業務方法書第10条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第３条　業務方法書第11条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第11条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第４条　業務方法書第12条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第５条　業務方法書第13条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

第２節　漁業技術・経営研修事業

― １ 国内研修 ―

（助成額）

第６条　業務方法書第17条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第７条　業務方法書第18条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第18条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第８条　業務方法書第19条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第９条　業務方法書第20条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

― ２ 海外研修事業 ―

（助成額）

第10条　業務方法書第25条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第11条　業務方法書第26条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第26条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第12条　業務方法書第27条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第13条　業務方法書第28条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

第３節　漁業青壮年・女性活動事業

― １ 漁業青壮年活動 ―

（助成額）

第14条　業務方法書第31条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第15条　業務方法書第32条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第32条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第16条　業務方法書第33条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第17条　業務方法書第34条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

― ２ 漁業女性活動 ―

（助成額）

第18条　業務方法書第37条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第19条　業務方法書第38条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第38条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第20条　業務方法書第39条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第21条　業務方法書第40条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

第４節　異業種間交流事業

（助成額）

第22条　業務方法書第44条に基づく助成基準等は、別表１のとおりとする。

（申請及び決定）

第23条　業務方法書第45条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第45条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第24条　業務方法書第46条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第25条　業務方法書第47条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

第３章　特認事業

（申請及び決定）

第26条　業務方法書第50条に基づく申請は、様式第１号により申請書提出期日は別表２のとおりとする。

２　業務方法書第50条に基づく決定通知は、様式第２号のとおりとする。

（助成）

第27条　業務方法書第51条に基づく助成金請求書は、様式第３号のとおりとする。

（報告）

第28条　業務方法書第52条に基づく報告は、様式第１号のとおりとする。

第４章　雑則

第29条　この業務細則に定めがないもので、必要な事項が生じたときはその都度理事長が決定する。

（附則）

この業務細則は、平成５年３月16日から施行する。

この業務細則は、平成15年３月27日から施行する。

この業務細則は、平成16年４月１日から施行する。

別表１（第２条、第６条、第10条、第14条、第18条、第22条関係）

助　成　基　準　等

事　業　名	助　成　額	摘　　要
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	・１地区　２５万円以内	・予算の範囲以内
青少年漁業体験・交流事業	・漁業体験学習・交流活動等経費 １少年団又は１行事　５万円以内 ・漁業に関するクラブ活動等経費 １高等学校　１０万円以内	・予算の範囲以内
漁業技術・経営研修事業	・国内研修　１チーム　５０万円以内 ・海外研修　１人　５０万円以内	・予算の範囲以内 ・技術試験等の実施を前提とした研修計画を優先的に採択する。
漁業青壮年・女性活動事業	・１課題又は１行事　３５万円以内	・予算の範囲以内 ・継続的な技術試験については単年度毎に試験結果等を評価したうえで継続を認める。 ・国庫補助事業等、基金以外の助成事業計画と類似している場合は助成対象としない。 ・競技等用具類に係る経費並びに懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
異業種間交流事業	・１行事　２５万円以内	・予算の範囲以内 ・懇親会に係る飲食費は助成対象としない。
特認事業	・別に定める。	

別表２（第３条、第７条、第11条、第15条、第19条、第23条、第26条関係）

申　請　書　提　出　期　日

事　業　名	申請書提出期日
漁業担い手育成基金地区推進協議会活動	地区協議会開催の１箇月前
青少年漁業体験・交流事業	事業実施の１箇月前
漁業技術・経営研修事業	事業実施の１箇月前
漁業青壮年・女性活動事業	事業実施の１箇月前
異業種間交流事業	事業実施の１箇月前
特認事業	事業実施の１箇月前

様式第１号（第３条、第７条、第11条、第15条、第19条、第23条、第26条関係）

年度（助成事業の名称）助成金申請書（実績報告書）

年　　月　　日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長　　様

（申請者）
団体名
代表者氏名　　印

（助成事業の名称）を実施したいので（実施したので）、関係書類を添えて下記のとおり申請（報告）します。

記

１　申請額（報告時は不要、円単位）

２　実施計画（実績報告）

目　　的	
実 施 時 期	
実 施 場 所	
内　　容	

３　収支予算（決算）書

(1)　収入の部

区　　分		予　算　額	決　算　額	備　　考
漁業担い手育成基金助成金				
その他				
計				

(2)　支出の部

区　　分	予　算　額	決　算　額	備　　考
報償費			
旅費			
需用費			
使用料及び賃借料			
その他			
計			

様式第２号（第３条、第７条、第11条、第15条、第19条、第23条、第26条関係）

年度（助成事業の名称）助成金交付決定通知書

岩漁基第　　号
年　　月　　日

（申請者）　　様

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長

　　年　　月　　日付けで申請のあった　　年度（助成事業の名称）については、金　　円を交付します。

様式第３号（第４条、第８条、第12条、第16条、第20条、第24条、第27条関係）

年度（助成事業の名称）助成金請求書

年　　月　　日

財団法人岩手県漁業担い手育成基金
理事長　　様

（申請者）
団体名
代表者氏名　　印

年　　月　　日付け岩漁基第　　号で交付決定のあった　　年度（助成事業の名称）について、金　　円を請求します。

記

助成金振込先

金融機関名			
口 座 種 目	普通 ・ 当座	口座番号	No.
ふりがな			
口 座 名 義			
住　　所			
電 話 番 号			